

滝沢市自治会連合会創立 50 周年記念事業

提言書

～ これからの自治会のあり方 ～

滝沢市自治会連合会

目 次

はじめに	滝沢市自治会連合会 会長あいさつ	1
第1章 自治会とは		2
1	自治会とは.....	2
2	滝沢市の自治会.....	2
3	自治会の主な活動.....	3
第2章 自治会を取り巻く社会環境		4
1	自然環境.....	4
2	生活環境.....	4
3	人口と世帯数の推移.....	4
4	人口比率の推移.....	6
5	地区別世帯数の推移.....	7
6	地区別人口比率の推移.....	8
7	地区別年代別人口の比較.....	11
第3章 地域に関する市民の思い		17
1	滝沢市地域社会に関するアンケート調査.....	17
2	暮らしの現状と考え方について.....	18
3	地域行事への参加について.....	22

第4章 自治会の現状と課題 24

- 1 自治会役員から見た自治会の現状と課題..... 24
- 2 ワークショップによる現状と課題の把握..... 26

第5章 これからの自治会の姿 31

- 方向性と論点の整理..... 31
- 1 必要とされる自治会を目指します..... 33
 - 2 参加しやすい自治会を目指します..... 36
 - 3 負担の少ない自治会を目指します..... 39

おわりに 自治会のあり方検討部会 部会長あいさつ 41

参考資料 42

- (1) 自治会区分図..... 43
- (2) モデル自治会ワークショップ報告書..... 44
- (3) 自治会のあり方検討部会設置規程..... 67
- (4) 自治会のあり方検討部会 名簿..... 68

はじめに

滝沢市自治会連合会は、昭和46年に発足し、以来、住みよい地域づくり、安全・安心な地域づくりのため様々な地域課題の解決に取り組み、創立50周年を迎えました。

この記念すべき年にあたり、これまで歩んできた足跡をたどり、本会の果たす役割を再確認するとともに、今後の市民主体の地域づくり活動の方向を展望するため、自治会のあり方検討部会を設置しました。この部会では、約10か月にわたり、意見交換や議論を重ね、このたび、これからの自治会の姿を取りまとめた「提言書 ～これからの自治会のあり方～」をまとめました。

自治会は、地域において人と人とのつながりをつくり、そのつながりを持った住民が連携・協力しながら、地域の様々な課題を解決するための組織です。

近年、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、人と人のつながりを維持することが難しい状況が続いていますが、本会の提言が契機となり、それぞれの地域の特性、世帯規模や社会環境に応じた「住み良い地域づくり」が持続することを期待するものです。

結びに、本提言書を発行するにあたり、ご協力いただいたすべての皆さまに心から感謝申し上げます。

令和4年3月31日

滝沢市自治会連合会
会長 下田 富幸

第1章 自治会とは

1 自治会とは

自治会は、日本の市町村において、町または字の区域などの一定の区域に住んでいる皆さんによって組織される地域コミュニティ団体です。「自治会」のほかにも「町内会」や「団地会」「区会」など様々な名称で、日本全国に存在しています。

自治会は、地域において人と人とのつながりをつくり、そのつながりを持った住民が連携・協力しながら、地域の様々な課題を解決し、住み良い地域をつくるために組織されています。

2 滝沢市の自治会

滝沢市においては、昭和43年に、市内全域を13の地域とし、各地域に行政連絡員が会長を兼務するコミュニティ組織（部落会）が結成されました。その組織は、昭和45年開催の岩手国体を市民一丸となって成功させるべく結成が進められたものでありますが、昭和46年に、自治会として「自治会連合会」を組織して以降、市民の自主的な地域づくり活動を担う組織として、市民生活の中に根付いています。

自治会連合会創立当時13だった自治会数は、昭和50年代以降の大規模な宅地開発などによる都市化に伴う人口増加により、現在では32まで増加し、「安心・安全な地域づくり」のため、地域課題の解決に取り組むとともに、それぞれの地域に最適な地域活動を実施しています。

3 自治会の主な活動

滝沢市の自治会は、これまで地域の課題解決のため、次のような活動を実施してきました。

(1) 親睦活動

夏祭りや文化祭、敬老会などの親睦事業、世代間交流事業、地域の伝統を継承する活動

(2) 防災防犯活動

防犯パトロール、防災訓練、街路灯や防犯灯の点検管理、交通安全活動

(3) 環境美化活動

ごみ集積所の維持管理、公園トイレの清掃管理、道路や公園の草刈りや清掃、花壇づくり、集団資源回収

(4) 子育て・福祉活動

高齢者世帯の見守り、いきいきサロンの開催、健康教室の開催、スクールガード等による登下校の見守り

(5) 地域づくり活動

地域内の他団体との連携による事業の検討、地域の意見や要望を市に伝える。

(6) 広報活動

市広報等の配布・回覧、自治会報や地域情報の配布・回覧、掲示板へのポスター掲示

第2章 自治会を取り巻く社会環境

1 自然環境

滝沢市は、県庁所在地の盛岡市の北西に隣接し、東西約14キロメートル、南北約20キロメートル、総面積182.46平方キロメートルです。

市内には秀峰岩手山を抱き、雫石川、北上川が流れ、また、田畑と山林が全面積の51.8%を占めており、雄大な自然を身近に感じることができます。

2 生活環境

滝沢市は、明治22年に滝沢村として発足し、平成12年2月15日に人口5万人を達成し「人口日本一の村」となり、平成26年1月1日に市制移行した岩手県第14番目の市です。

市内には、岩手県立大学や盛岡大学をはじめとする各種研究機関が集積しており、市の南部にはJR東日本田沢湖線が横断し、東部にはIGRいわて銀河鉄道が縦断しています。また、市の中央部には東北縦貫自動車道が縦断し、滝沢インターチェンジと滝沢中央スマートインターチェンジが設置されているため、市内を縦断する国道4号と、横断する国道46号とのアクセスが便利です。

市内の中央部では近年においても大規模な宅地開発が行われ、新築家屋が増えています。一方、空き家が増加している地域もあります。

3 人口と世帯数の推移

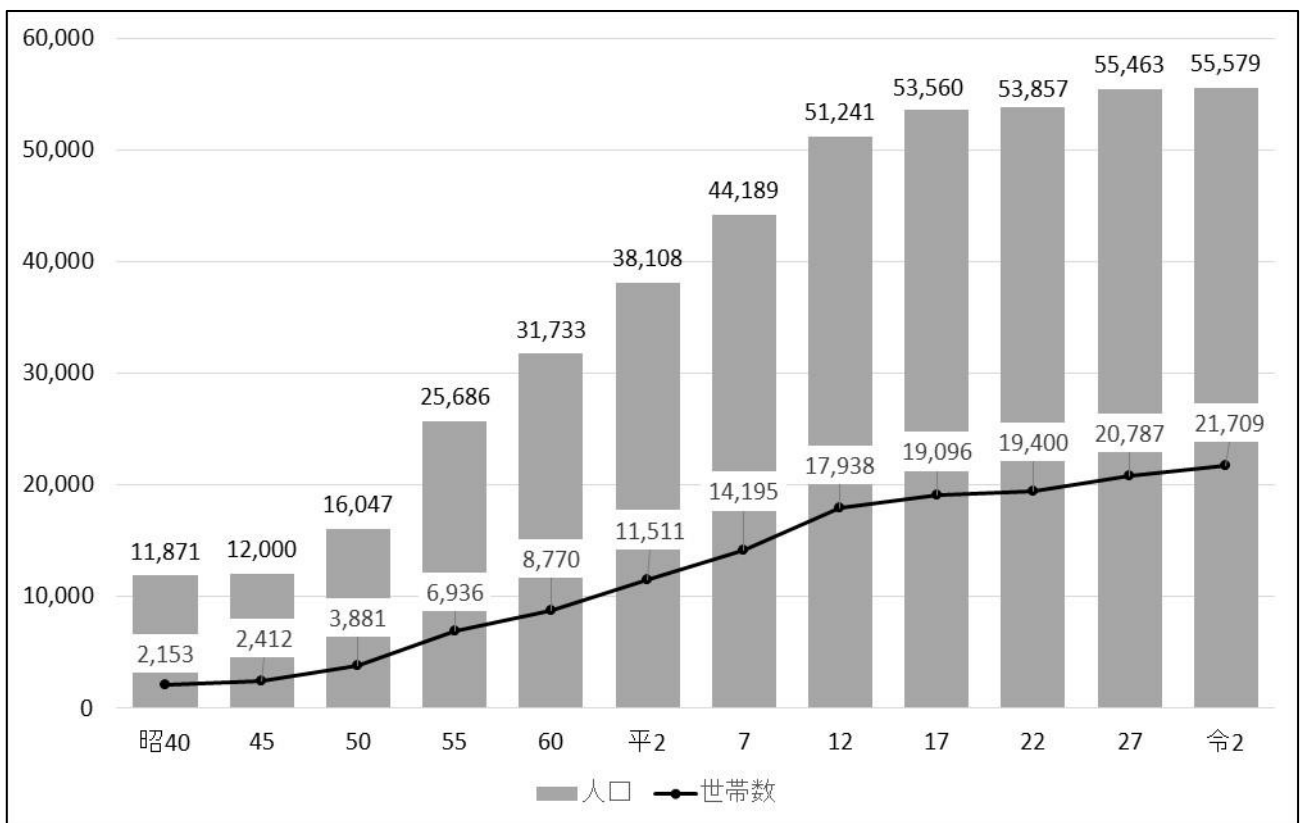
滝沢市の人口は、昭和40年代後半から住宅団地の造成が進み、滝沢市に移り住む方々が急増し、平成17年まで増加し続けていましたが、その後は人口の伸びが鈍化しており、令和2年国勢調査による滝沢市の人口は55,579人となっています。日本全体で少子高齢化が進み、人口減少を迎えているなかで、人口が減少に転じていないのは、非常に珍しい事例であるといえます。

一方、世帯数は、人口増加が横ばいとなっても増加し続け、令和2年には

21,709世帯になっています。また、人口を世帯数で割った1世帯当たりの人員数は、昭和40年には5.5人でしたが、令和2年には2.6人へと半減しています。

これらのことから、人口は増加しているものの、世帯の小規模化、核家族化などが進行しているのがわかります。

総人口及び世帯数の推移（昭和40年～令和2年）



資料：国勢調査

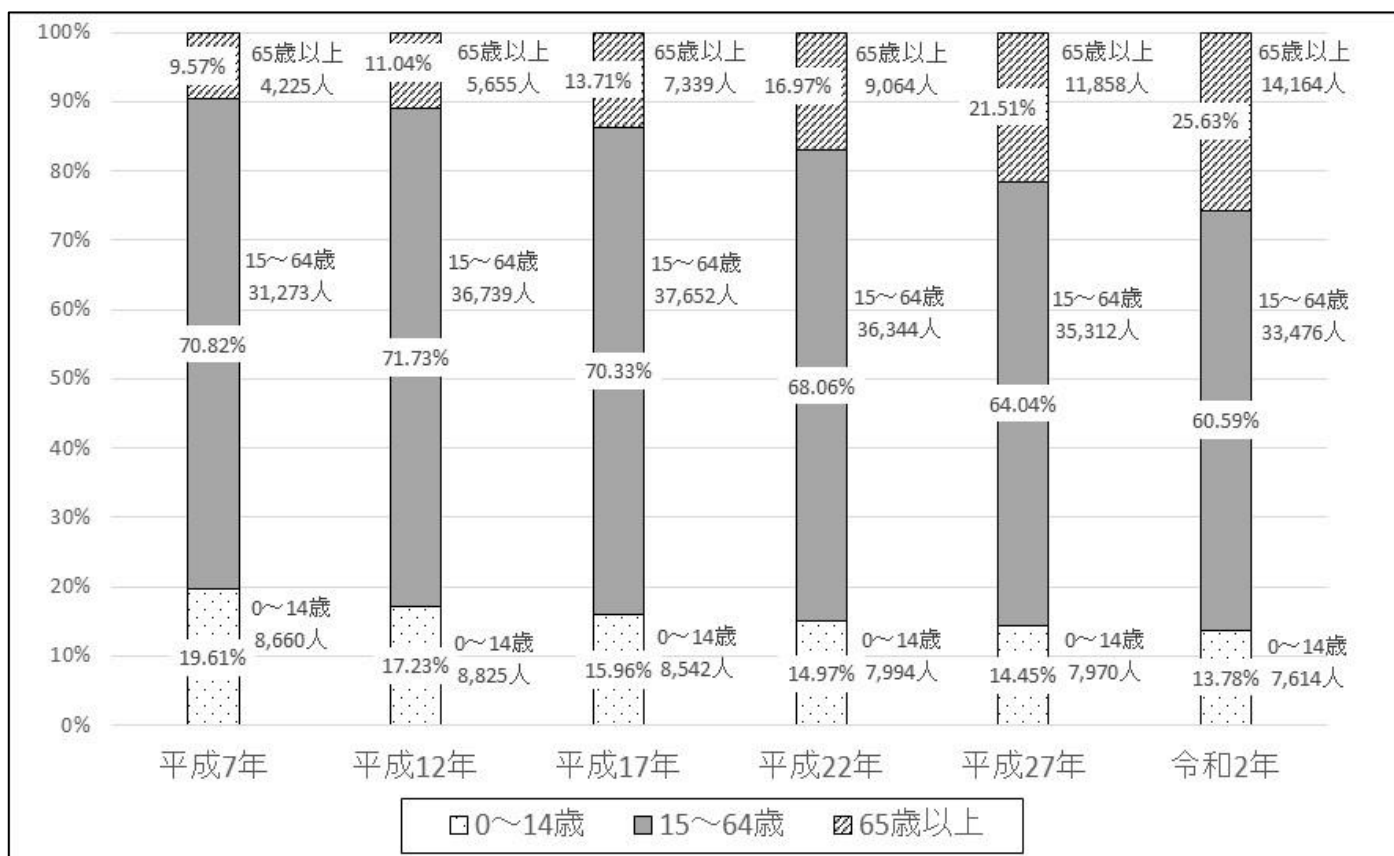
4 人口比率の推移

令和2年国勢調査による市民の平均年齢は45.5歳と岩手県下では一番低くなっています。

しかしながら、人口比率は、「15歳未満」と「15～64歳」の比率が減少している一方、「65歳以上」の比率は毎年増加しています。また、平成17年から平成22年の間に「15歳未満」と「65歳以上」の人口の比率が逆転しています。

これらのことから、総人口は増加しているものの、少しずつ高齢化が進行していることがわかります。

年齢3区分人口比率の推移（平成7年～令和2年）



※年齢不詳人口を除く。

資料：国勢調査

5 地区別世帯数の推移

ここから、市内を次の3つの地区に分け、その地区ごとに分析を行います。

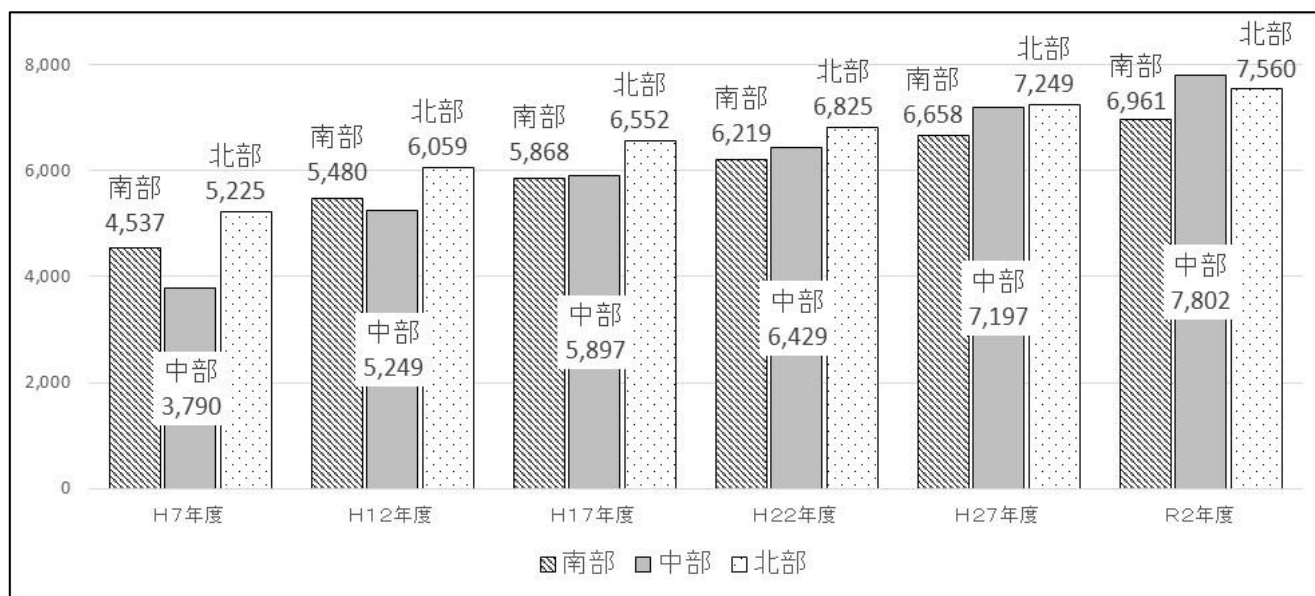
地区名と構成自治会

地区	自治会名
南部	小岩井、大釜上、大釜南、篠木、大沢、鶉飼南、鶉飼中央、滝沢パークタウン上の山、上鶉飼、鶉飼温泉、滝沢ニュータウン、姥屋敷
中部	元村南、室小路、国分、元村中央、牧野林中央、南牧野林、法誓寺、元村東元村西、元村北、あすみ野
北部	柳沢、巣子、南巣子、長根、川前、南一本木、いずみ巣子ニュータウン、北一本木

滝沢市の地区別世帯数は、どの地区も増加していますが、南部・北部地区では1.5倍の増加であるのに対し、中部地区は2倍の増加となっています。

このことから、中部地区は、他の地区に比べて宅地化が進み、多くの住宅が建設されたことにより世帯が増加している地区であることがわかります。

地区別世帯数の推移（平成7年～令和2年）



※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

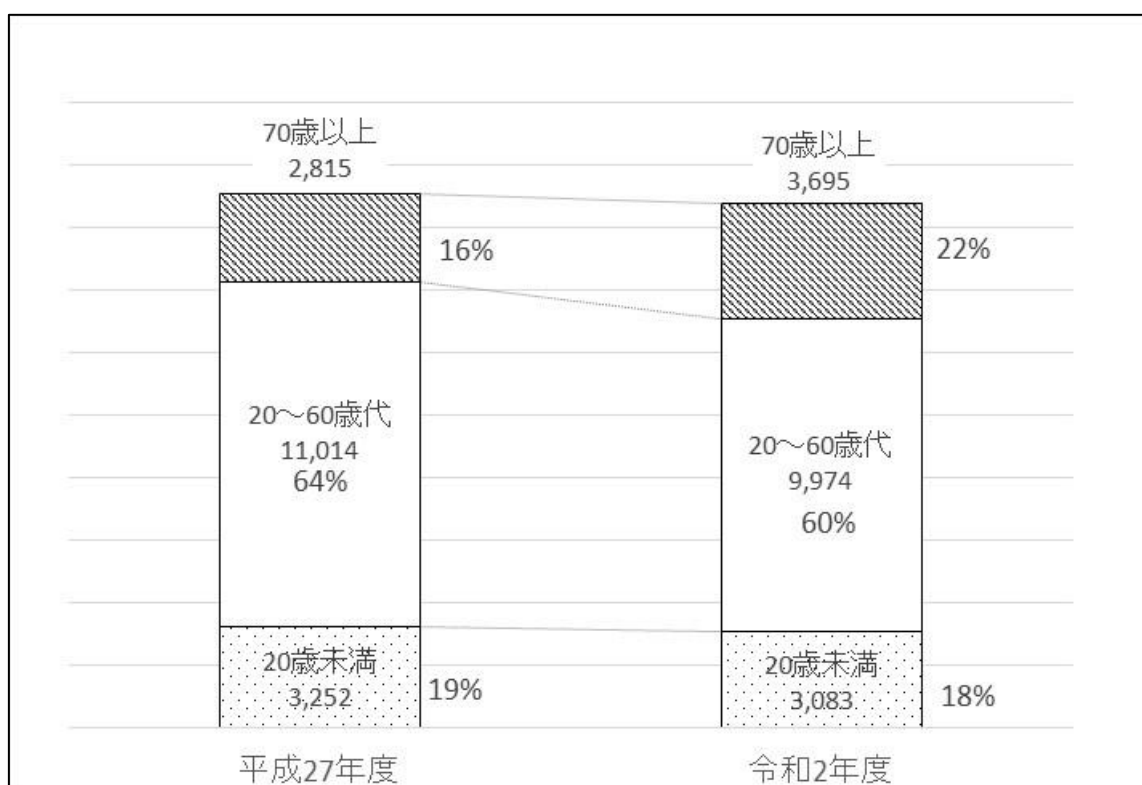
資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」

6 地区別人口比率の推移

南部地区

南部地区は、平成27年度から令和2年度の5年間の総人口が減少していますが、「70歳以上」の人口は増加し比率が22%となっており、3地区で最も「70歳以上」の比率が高い地区です。

また、20歳未満の人口は横ばいですが、20～60歳代の人口比率が4%低下し60%となっており、他の地区と比べ最も低くなっています。

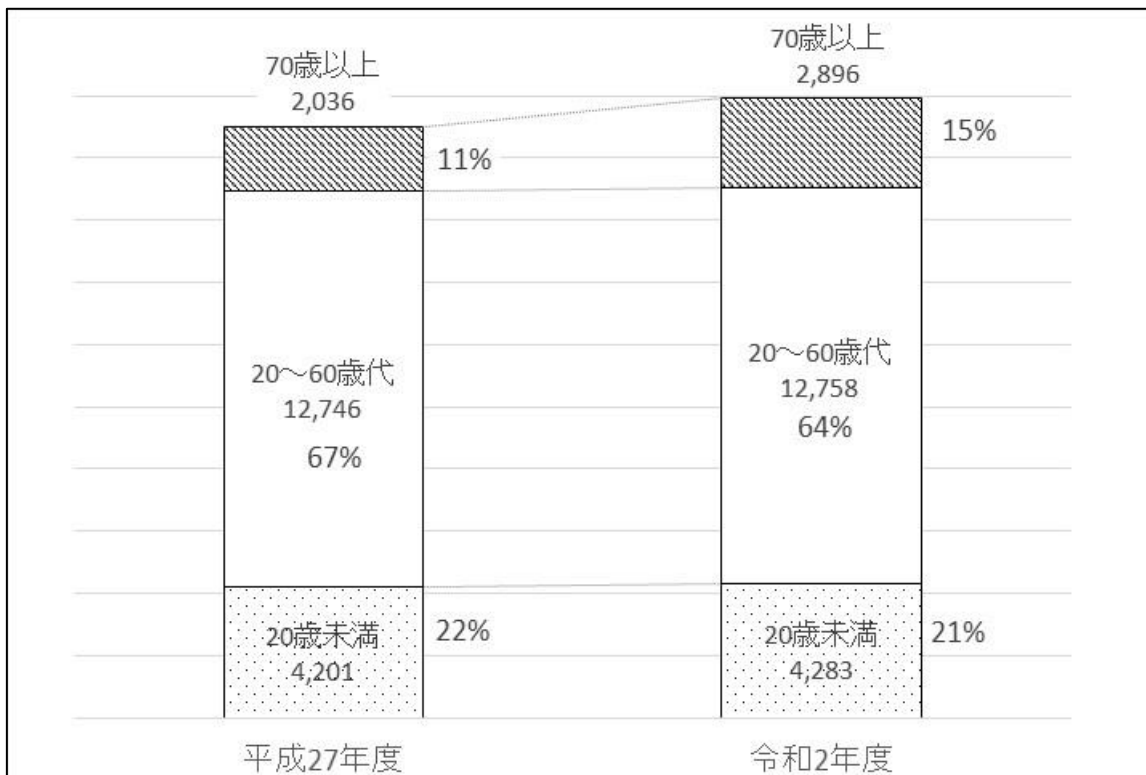


※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」

中部地区

中部地区は、唯一、平成27年度から令和2年度の5年間の総人口が増加していますが、「20歳未満」と「20～60歳代」の人口は、ほとんど変化がありません。「70歳以上」の人口が増加していますが、比率は3地区の中で最も低くなっています。また、「20歳未満」の人口と比率は、どちらも3地区の中で最も高くなっており、子ども世代が多く住む地域であることがわかります。

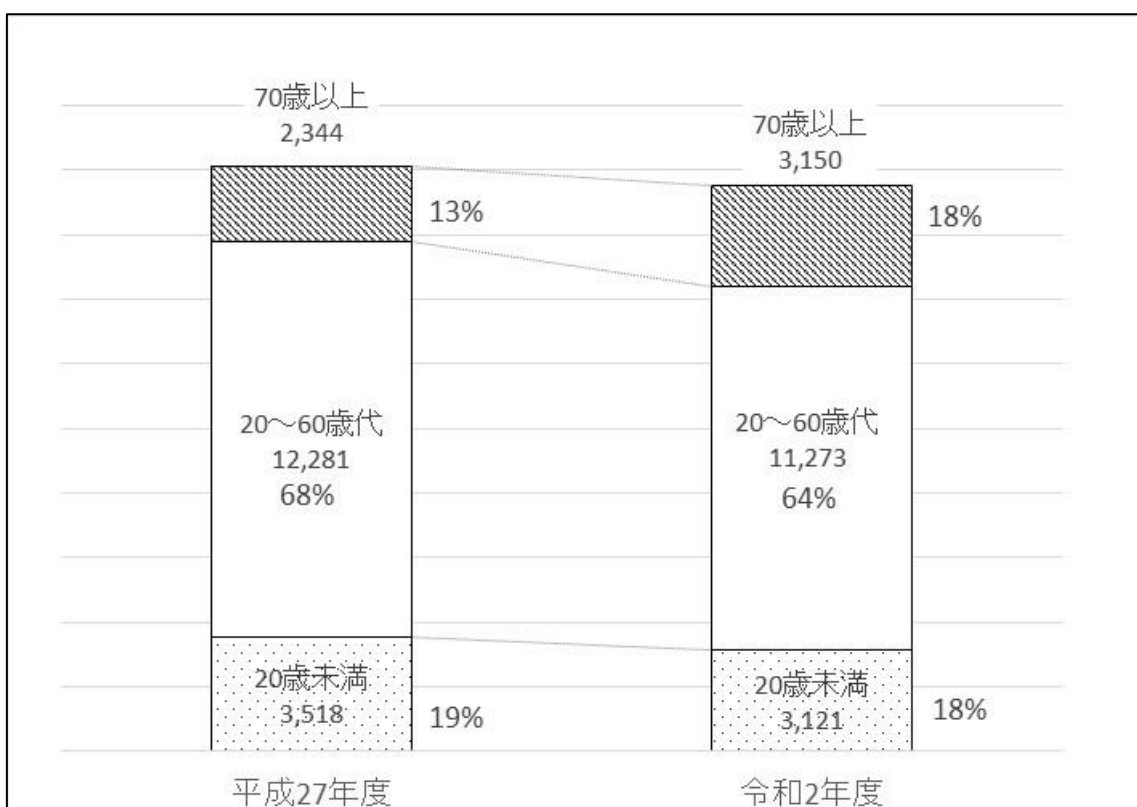


※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」

北部地区

北部地区は、南部地区と同様、平成27年度から令和2年度の5年間の総人口が減少していますが、「70歳以上」の人口は増加しています。「20歳未満」と「20～60歳代」の人口がともに減少していることから、今後、高齢化が進んでいくことが予想されます。



※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」

7 地区別年代別人口の比較

ここでは、市内3地域における平成27年度と令和2年度の年代別人口を比較してみました。

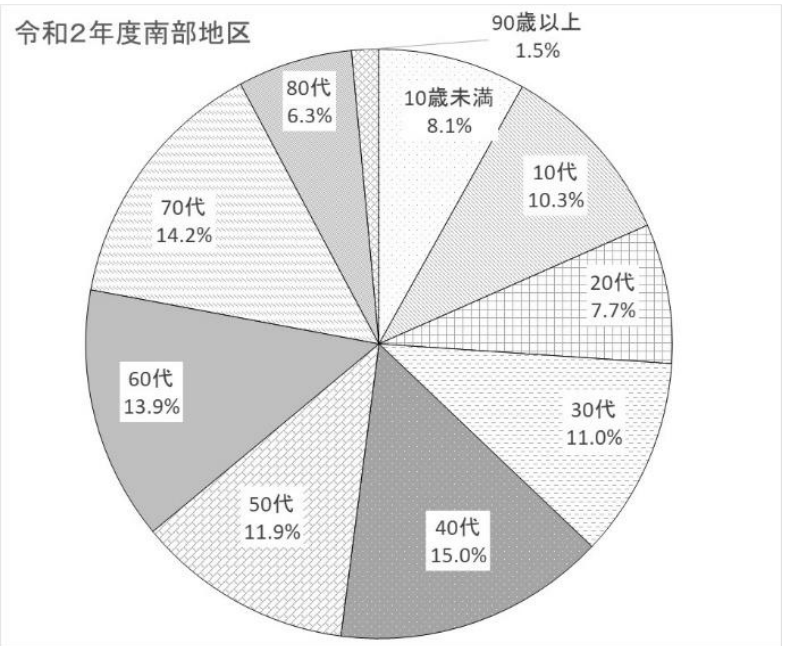
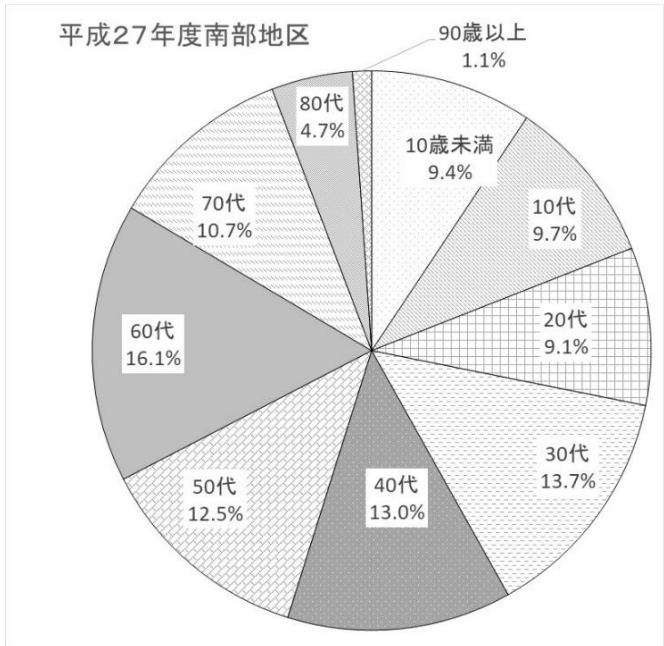
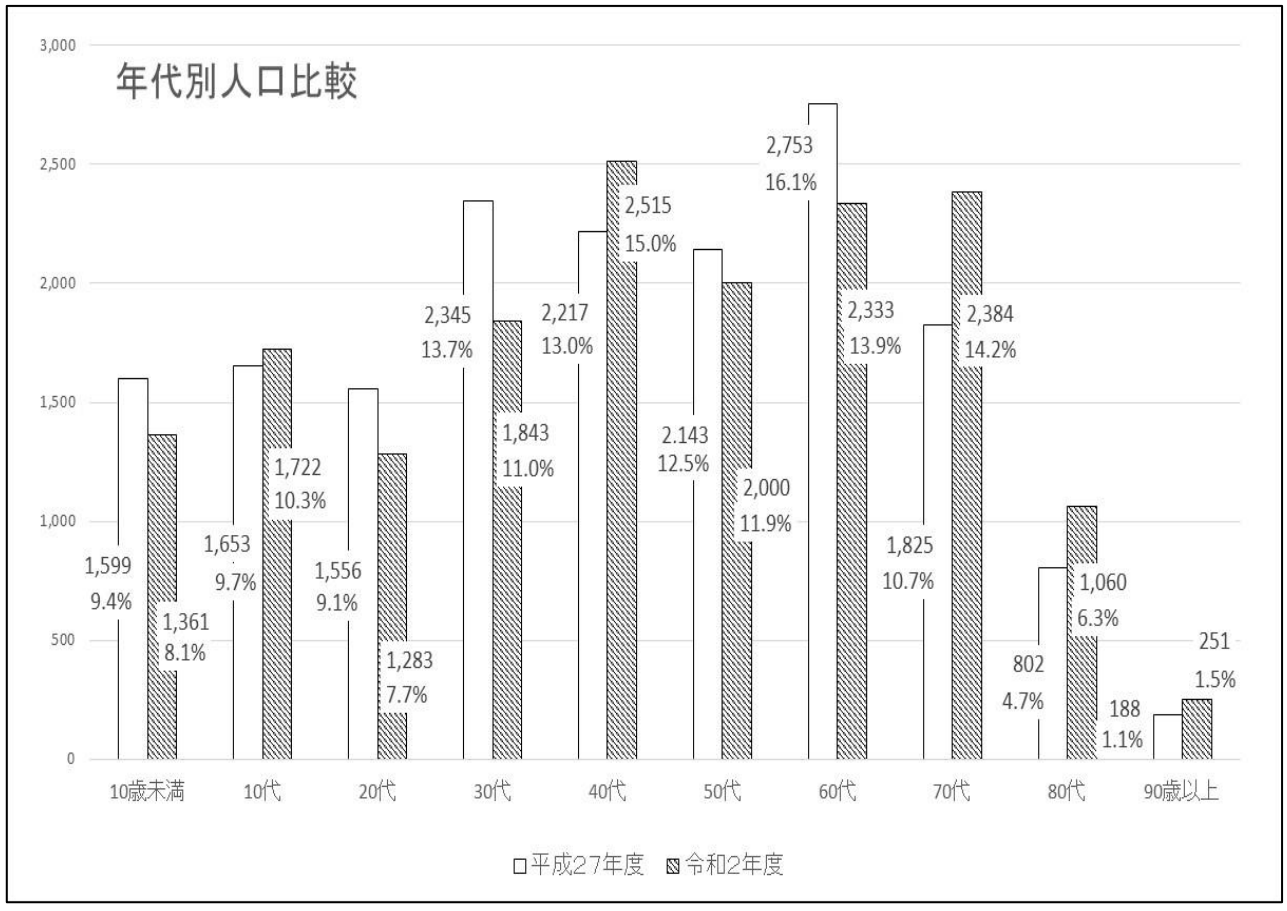
南部地区

南部地区は、昭和50年代の大型宅地開発により移り住んだ方々が多い地区です。このため、平成27年度に最も多かった「60代」の方が、令和2年度には「70代」になり、高齢化が進んでいます。一方で、平成27年度から令和2年度の5年間に総人口が減少する中であっても、「40代」と「10代」の人口も増加していることから、現在の地区内には子育て世帯も多く住んでいることがわかります。

年代	平成27年度	令和2年度
10歳未満	1,599人	1,361人
10代	1,653人	1,722人
20代	1,556人	1,283人
30代	2,345人	1,843人
40代	2,217人	2,515人
50代	2,143人	2,000人
60代	2,753人	2,333人
70代	1,825人	2,384人
80代	802人	1,060人
90歳以上	188人	251人
合計	17,081人	16,752人

※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」



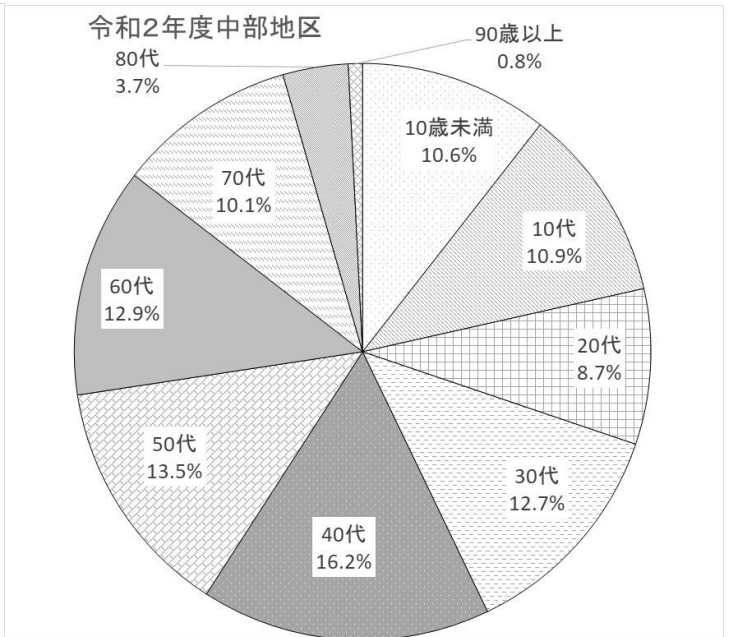
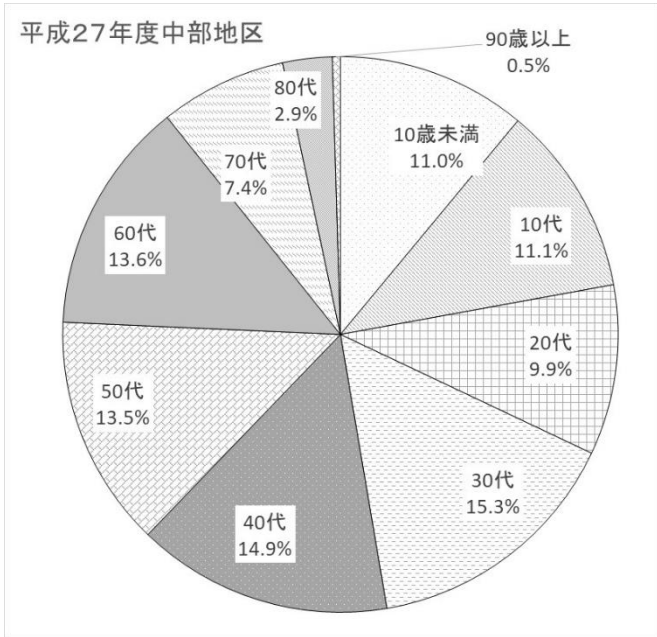
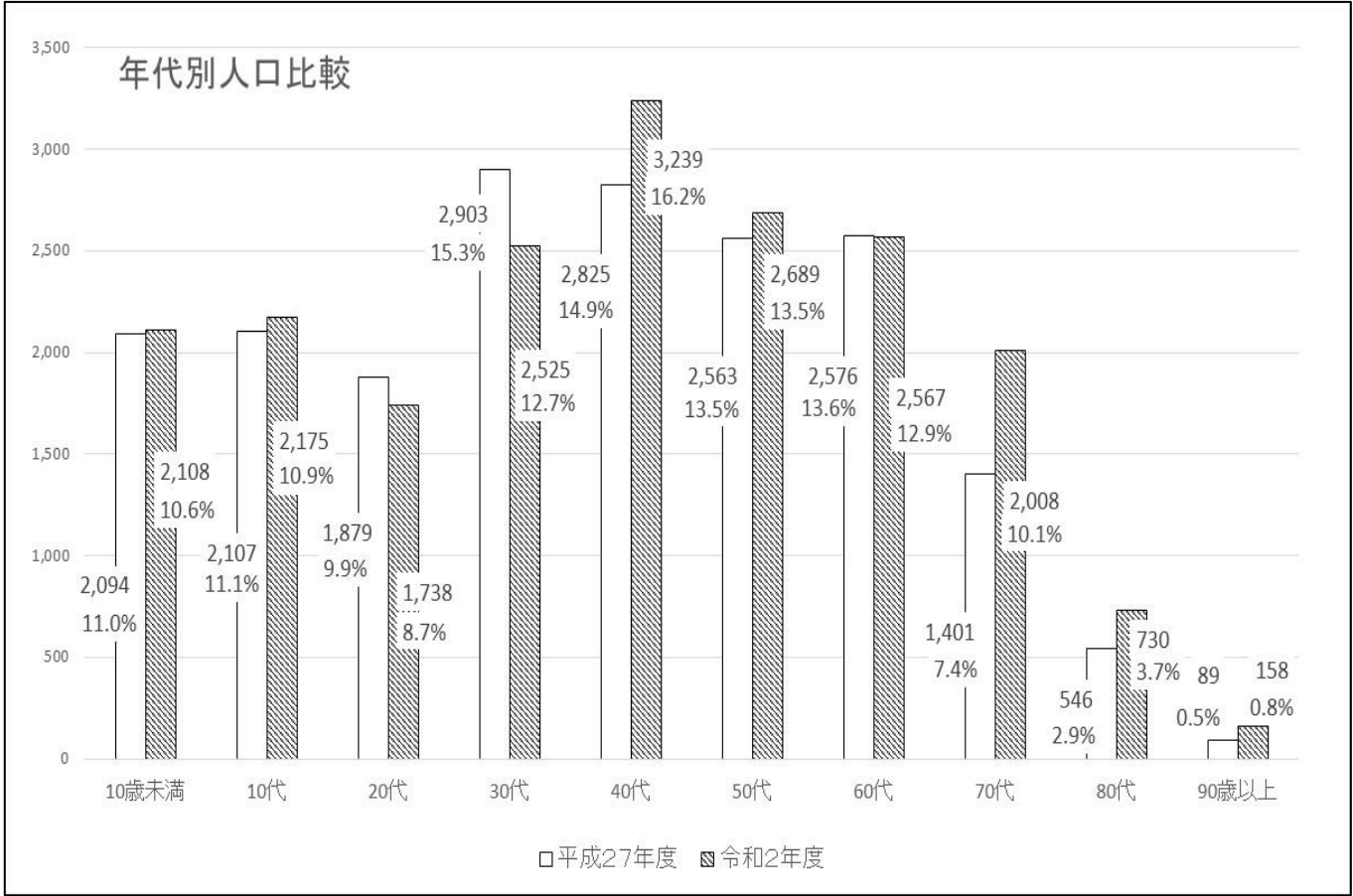
中部地区

中部地区は、この5年間で総人口が増加しています。その中でも特に「10代未満」「10代」と「40代」の人口が増加しています。このことから、多くの子育て世帯が地区内に移り住んだことがわかります。一方で、「70代」も増加しており、地区内の高齢者が増加傾向であることがわかります。

年代	平成27年度	令和2年度
10歳未満	2,094人	2,108人
10代	2,107人	2,175人
20代	1,879人	1,738人
30代	2,903人	2,525人
40代	2,825人	3,239人
50代	2,563人	2,689人
60代	2,576人	2,567人
70代	1,401人	2,008人
80代	546人	730人
90歳以上	89人	158人
合計	18,983人	19,937人

※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」



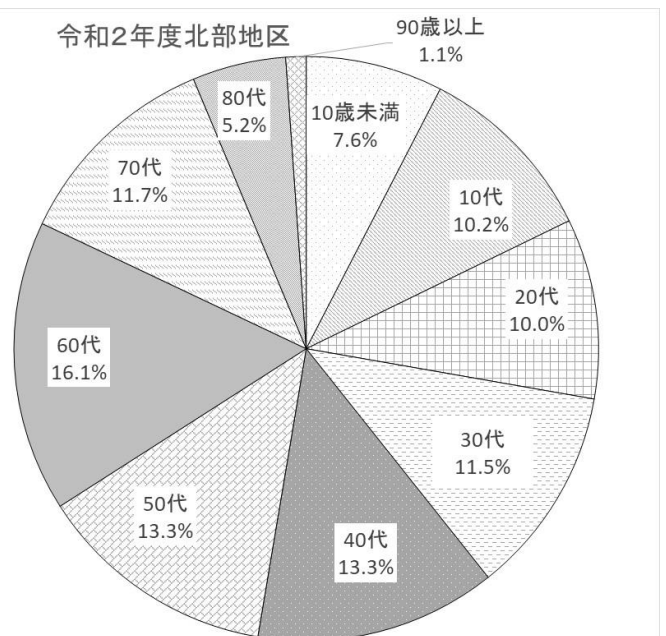
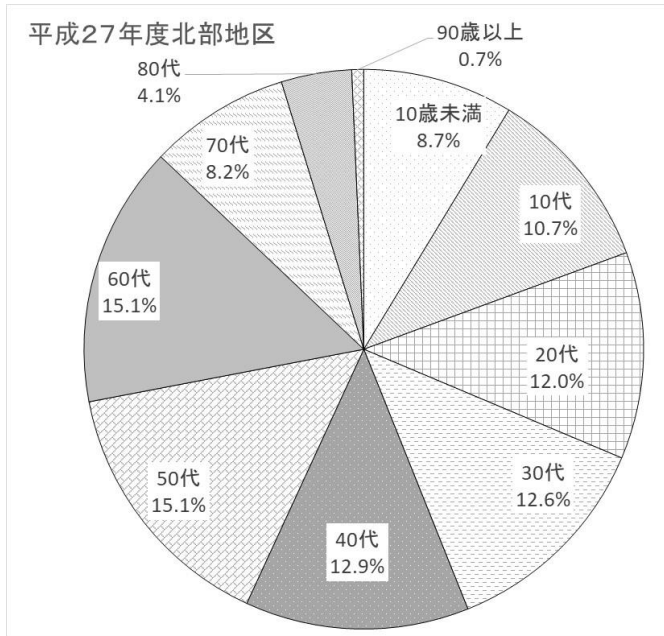
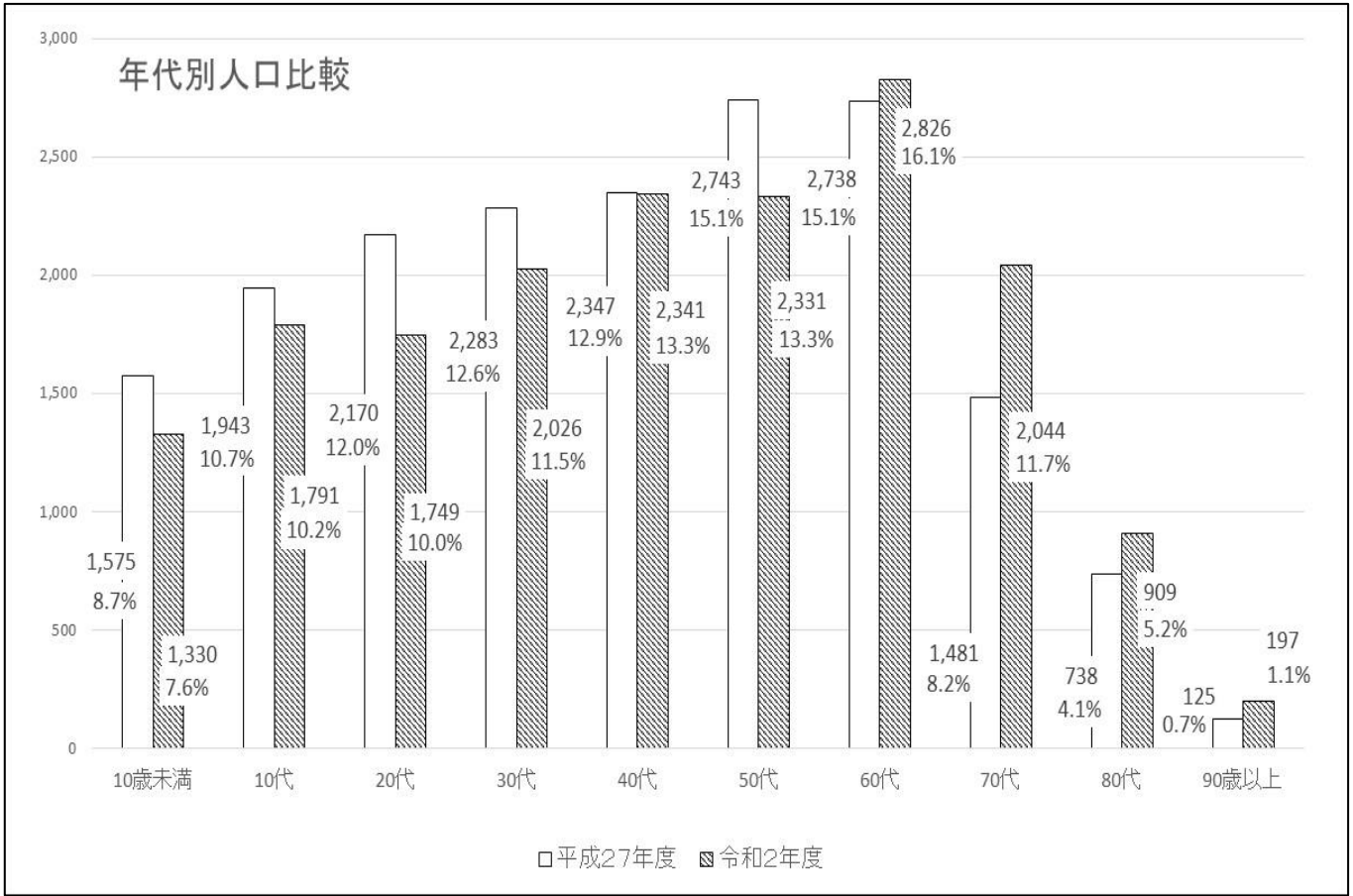
北部地区

北部地区は、この5年間で「50代」以下の世代で人口が減少し、総人口が減少しています。一方で「60代」以上の世代の人口は増加していることから、今後、高齢化が進行していくことが予想されます。

年代	平成27年度	令和2年度
10歳未満	1,575人	1,330人
10代	1,943人	1,791人
20代	2,170人	1,749人
30代	2,283人	2,026人
40代	2,347人	2,341人
50代	2,743人	2,331人
60代	2,738人	2,826人
70代	1,481人	2,044人
80代	738人	909人
90歳以上	125人	197人
合計	18,143人	17,544人

※高齢者施設や障がい者施設等の入居者を除く。

資料：地域づくり推進課「自治会別人口集計」



また、すべての地区で「20代」の人口が減少しており、子ども世代が卒業や就職を機に、滝沢市から他市町村へ転出していることがわかります。

第3章 地域に関する市民の思い

本章では、滝沢市の市民の皆さんが、日頃、自治会や地域づくり活動についてどのように感じているのかを分析します。

分析には、滝沢市が市民主体による地域づくりや市行政運営に活かしていくことを目的に毎年実施している「滝沢市地域社会に関するアンケート調査」のうち自治会に関わるものを抽出し、その回答状況から市民の方々の思いを把握・分析しました。

1 滝沢市地域社会に関するアンケート調査

調査方法

(1) 調査対象

滝沢市内に住所を有する満18歳以上の男女

(2) 標本数

3,000サンプル

(性別・世代・地域を考慮し、住民基本台帳を用いた無作為抽出)

(3) 調査方法

郵送による無記名自記式の調査紙調査（インターネット回答も可）

(4) 調査期間

令和2年10月21日～11月11日

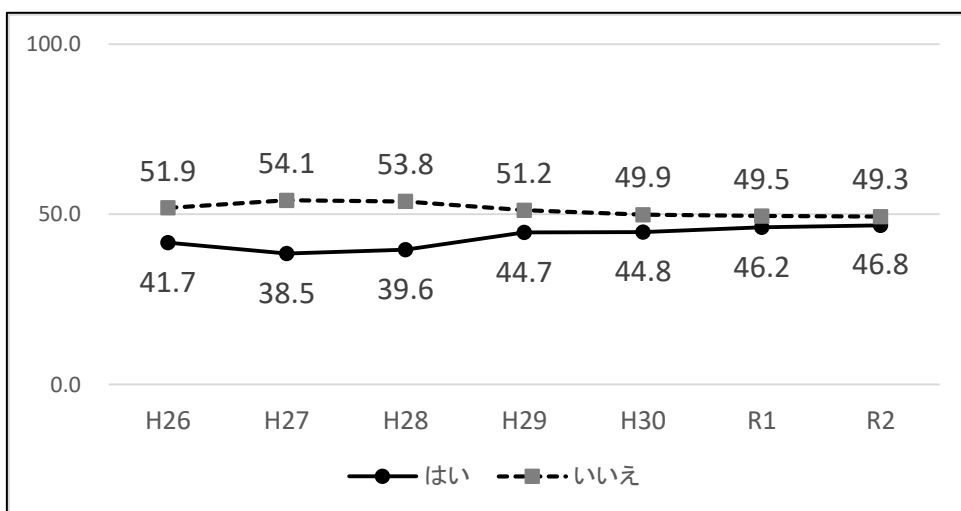
(5) 有効回答数

1,230件（回収率41.0%）（うちネット回答134件）

2 暮らしの現状と考え方について

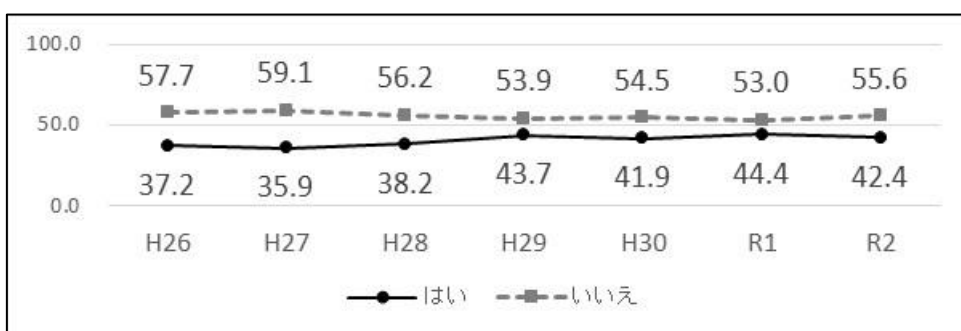
ここでは、滝沢市地域社会に関するアンケート調査の設問のうち、「暮らしの現状と考え方」に関する問を抽出しました。

みんなが支えあうことで地域の課題を解決できる市だと感じていますか。



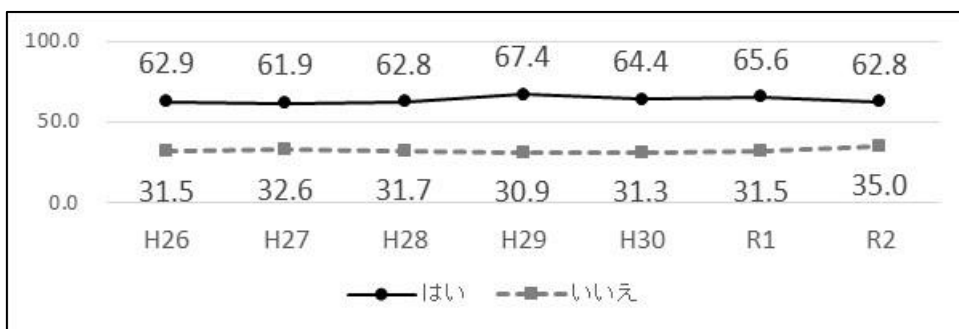
令和2年度には46.8%の人が「はい」と回答しています。経年比較すると、「いいえ」と答えた人の割合が「はい」と答えた人の割合より常に上回っています。

地域とつながっていると感じていますか。



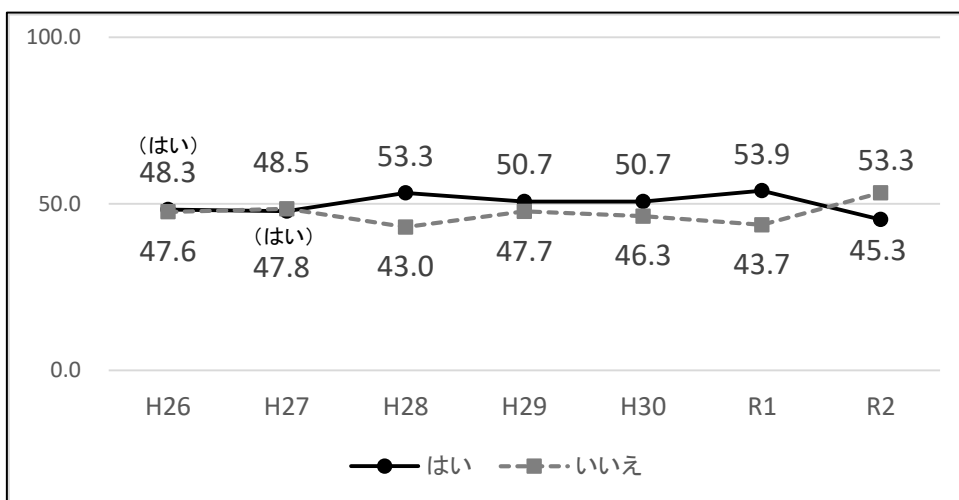
令和2年度には42.4%の人が「はい」と回答しています。経年比較すると「はい」と答えた人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。

地域での居心地が良いと感じていますか。



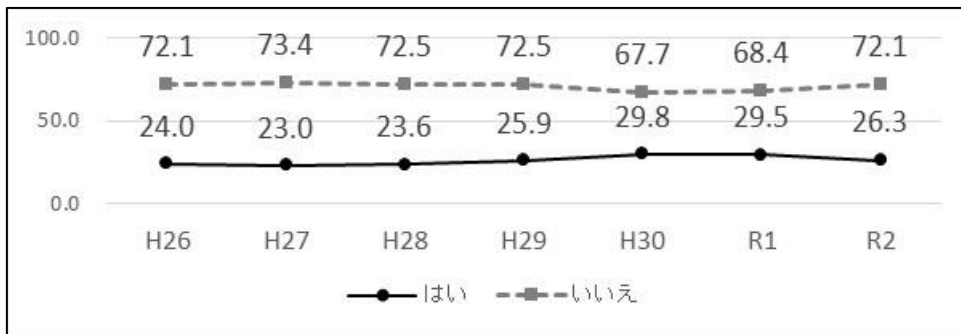
令和2年度には62.8%の人が「はい」と回答しています。経年比較すると「はい」と答えた人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。

ここ1年で地域活動に参加しましたか。



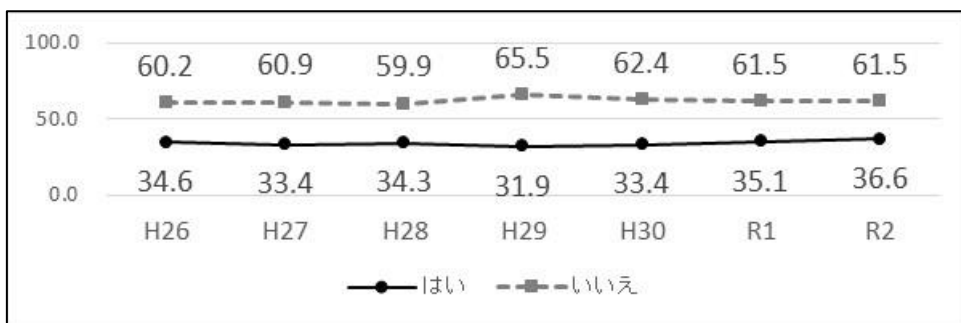
令和2年度は45.3%の人が「はい」と回答しています。平成28年度以降「はい」と答えた人の割合が「いいえ」と答えた人の割合より上回っていましたが、令和2年度に逆転しました。コロナ禍で地域活動の開催が縮小されたことが影響していると考えられます。

ここ1年で滝沢市内の自分が住んでいる地域以外の行事に参加しましたか。



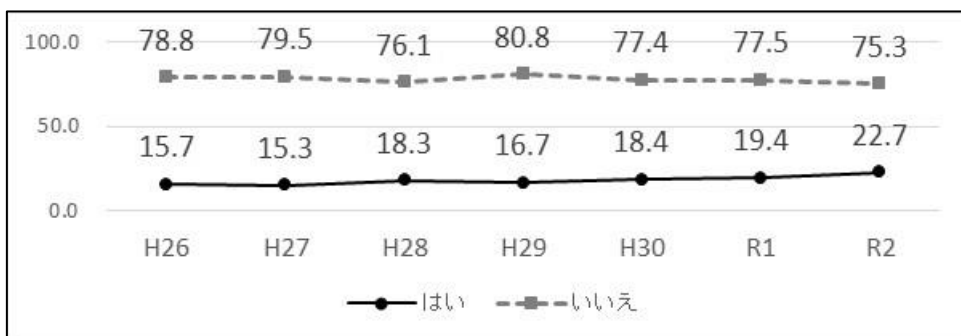
令和2年度は26.3%の人が「はい」と回答しています。経年比較をすると「はい」と答えた人の割合は、平成30年度以降、減少傾向にあります。

地域活動と自分の活動(仕事や趣味)を両立できていると感じていますか。



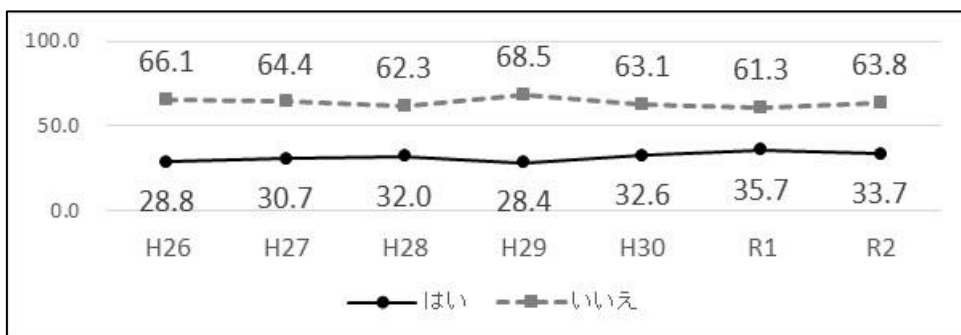
令和2年度は36.6%の人が「はい」と回答しています。経年比較すると「はい」と答えた人の割合は、緩やかに増加しています。

地域で趣味や特技を披露できる機会がありますか。



令和2年度は22.7%の人が「はい」と回答しています。経年比較すると「はい」と答えた人の割合は、緩やかに増加しています。

地域の役に立つ機会があると感じていますか。

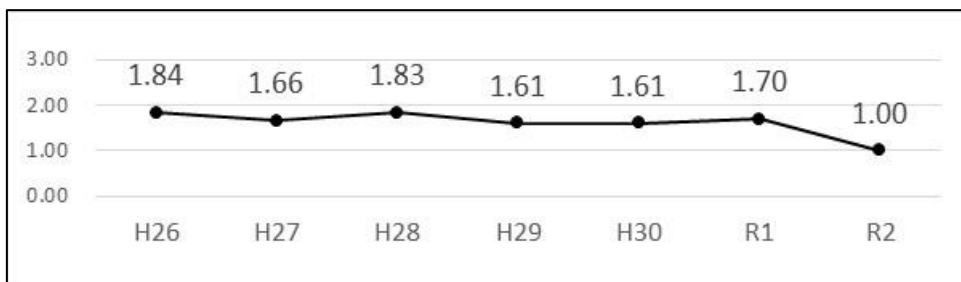


令和2年度は33.7%の人が「はい」と回答しています。経年比較すると「はい」と答えた人の割合は、緩やかな増加傾向にあります。

3 地域行事への参加について

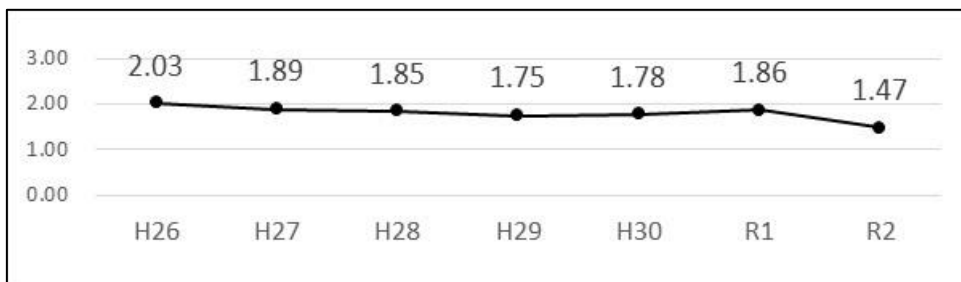
ここでは、滝沢市地域社会に関するアンケート調査の設問のうち、「地域行事への参加」に関する問を抽出しました。

ここ1年で地域のお祭りや行事に参加した回数はどのくらいですか。



令和2年度は1.00回となっています。コロナ禍の影響で地域行事の開催が縮小されたことが考えられます。

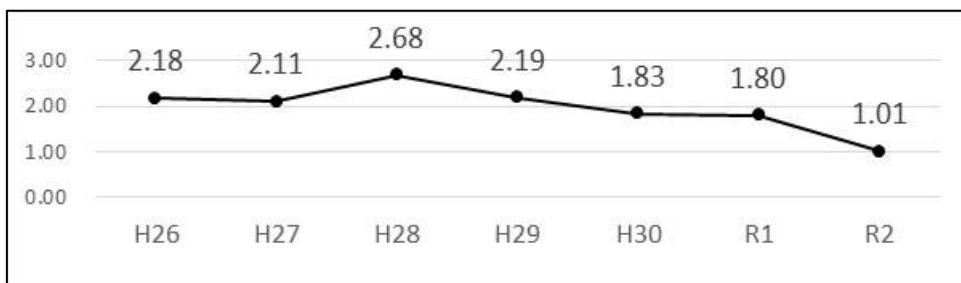
参加したいと思える地域行事の回数はどのくらいですか。



令和2年度における参加したいと思える地域行事の回数の平均は1.47回です。経年比較すると、減少傾向にあります。

子どもが地域行事に参加した回数はここ1年でどのくらいですか。

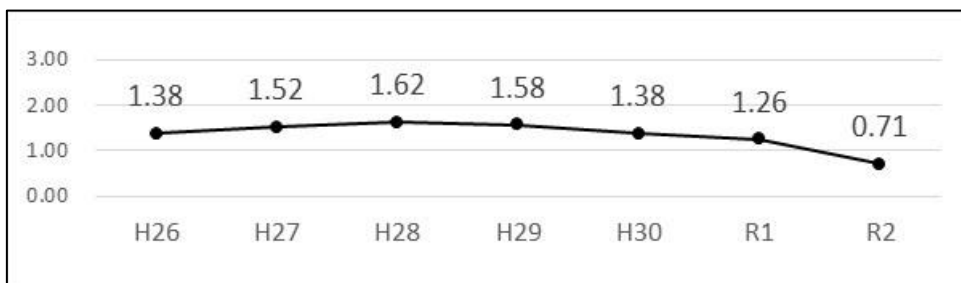
※この設問は、子育て(お子さんが0歳から高校生までの年代)をしている方が回答しています。



令和2年度に子どもが地域行事に参加した回数の平均は1.01回です。経年比較すると、平成28年度以降、減少傾向にあります。

子どもと一緒に地域行事に参加した回数はここ1年でどのくらいですか。

※この設問は、子育て(お子さんが0歳から高校生までの年代)をしている方が回答しています。



令和2年度に子どもと一緒に地域行事に参加した回数の平均は0.71回です。経年比較すると、平成28年度以降、減少傾向にあります。

第4章 自治会の現状と課題

1 自治会役員から見た自治会の現状と課題

自治会のあり方検討部会では、それぞれの部員が所属する自治会を取り巻く環境や自治会活動の内容についての報告をもとに、滝沢市の自治会の現状と課題をまとめました。

(1) 自治会を取り巻く環境について

- ・自然が豊かである。
- ・地域に愛着がある人の割合が高い。
- ・盛岡市への交通の便が良い。
- ・宅地開発により、新しい住宅が建ち、若い世代が増えた。
- ・核家族化が進行し、親と子どものみの世帯や高齢者のみの世帯、単身世帯が増加している。
- ・共働き世帯が増え、自治会活動に参加することが難しい世帯が増加している。
- ・高齢化により、班長やごみ集積所の清掃当番などをできない世帯が増えている。
- ・地域のつながりが希薄化し、自治会への関心が低くなっている。
- ・地域内に空き家が増えている。
- ・地域の商店が閉店し、近くに買い物をする場所がない。
- ・地区集会所の老朽化が進んでいる。
- ・市中心部へ移動しづらい。

(2) 自治会の活動について

- ・役員が固定化しつつある。
- ・役員のなり手がなかなかいない。
- ・役員の高齢化が進行している。
- ・自治会から推薦する市の委嘱委員等のなり手がいない。
- ・知識や技能を持つ新しい役員が加わった。
- ・自治会行事への参加者が固定化し、参加率が低下している。

2 ワークショップによる現状と課題の把握

市内の3自治会を「モデル自治会」として抽出し、自分が住む地域を見直し、こうありたいと考える将来の地域の姿、その地域の姿を実現するための課題と解決策を共有するためのワークショップを実施しました。

抽出にあたっては、似たような社会環境の地域に偏らないよう農地と新興住宅地が共存する地域にある大釜南自治会、農地が地域の大半を占め、人口が少ない地域にある大沢自治会、大規模宅地開発により世帯が急増している地域にある牧野林中央自治会の3自治会を「モデル自治会」としました。

(1) ワークショップ実施方法

①対象自治会

大釜南自治会、大沢自治会、牧野林中央自治会

②参加者

自治会役員

③実施日

自治会名	第1回	第2回	第3回
大釜南自治会	8月20日	9月17日	10月20日
大沢自治会	10月6日	11月10日	1月21日
牧野林中央自治会	9月19日	10月17日	11月14日

④ワークショップテーマ

第1回「自分たちの地域を知る」

第2回「自分たちの地域の未来をデザインする」

第3回「未来に向けた具体的な行動を！」

(2) ワークショップ概要

各自治会で行ったワークショップの報告をもとに、各自治会のある地域の長所・短所、これから目指す地域の姿をまとめました。

① 大釜南自治会

長所	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便がよい。整備されている。 ・あらゆる面で発展している。（新興住宅、区画整理等） ・自然災害が少ない。 ・公園が計画的に整備されている。 ・観光地が近い（移動30分圏内）。 ・都市ガス、水道等インフラが安い。 ・盛岡が近く、地域の立地が良い。 ・新興住宅地、アパートが増え、転入者が多い。 ・自治会内の人口の平均年齢が若い。 ・土日ジャンボ市他、買い物の場所や病院等生活に必要な施設が揃っている。 ・農業（米、野菜、果樹）が盛ん。 ・自然もあり、適度にインフラも整ってバランスが良い地域。 ・学校等も近くにある。子育てしやすい環境。 ・雫石川、岩手山、適度に農地もあり自然豊か。 ・（嫁いできたが）隣近所の人があつたかい人が多い。 ・助け合う仕組みがある。
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が残らない。（進学、就職等で地域外へ出て行く。） ・調整区域が多く、宅地が少ない。 ・新興住宅、アパート等住民と近隣の交流が少ない。 ・集合住宅住民と接点がない。 ・ちょっとした店、銀行等が近くにない。 ・（良くも悪くも）土地に執着。 ・（農業中心？）跡継ぎがない。 ・世代交流が少ない。 ・収入につながる事業（第一次産業、サービス？）が少ない。 ・これと言うブランドがない。 ・土産や観光、キラキラが少ない。 ・企業・会社（働く場）が少ない。

目指す姿	『どなたでもスーパーボランティア ～安全で安心、誰もが活躍する自治会』 『世代をこえてつながる笑顔あふれるまち』 『自然豊かで安心して子育てできるまち』
------	---

② 大沢自治会

<p>長所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便がよい。整備されている。 (バス路線、インターチェンジが近い等、道路網) ・3世代同居が多い。 ・人付き合いがしやすい。 ・自然豊かで閑静、暮らしやすい。 ・子どもが外で遊ぶことができる。 ・地域のまとまりがある、協調性がある。 ・「結っこ」声掛けが多い。 ・行事への女性の参加が多い。 ・茅葺き、蔵がある。 ・屋号が面白い。 ・伝統芸能「田植え踊り」を保育園、小学校で練習している。 ・地区運動会、健康ゲーム交流会、文化祭等楽しい行事が多い。
<p>短所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役員に負荷が多い。 ・行事が多いので大変。 ・ネットワークが固定化されているかもしれない。 ・新住民は、自分の立ち位置が見えない。(見えない壁) ・娯楽の場が少ない。 ・集合住宅住民と接点がない。 ・ちょっとした店が近くにない。 ・子どもが少ない。 ・独身が増えている、農業等跡継ぎが少なく不安。 ・車がないと移動困難である。 ・企業・会社(働く場)が少ない。
<p>目指す姿</p>	<p>『高齢者にも誰にでも“優しい地域”』 『地域の宝を再発見!』 『にぎやか・つながり・住民交流がある地域』</p>

③ 牧野林中央自治会

<p>長所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が少ない。（水害、地震・河川敷整備済。） ・商業施設が多く、買い物に不自由しない。 （生協等各スーパーがある。） ・産婦人科以外、医療機関が整っている。 ・学校（幼稚園、小学校、中学校が近くにある。） ・高校も自転車通学可能範囲内に3つある。 ・県交通滝沢営業所もあり、交通の便が良い。 ・近くで用事を済ませることができるので、高齢者等（移動困難者含）にとってとても利便性が高い。 ・しずかで治安が良い。飲み屋さんがない。 ・盛岡が近い。（ベッドタウン）滝沢市であるが盛岡に近い環境である。 ・新しい人と前から住んでいる人がいる。住みやすい。 ・よその人を受け入れる地域。人が優しい。 ・まとまりが良い。 ・スクールガードをしていて子どもたちから声をかけてもらえると嬉しい。 ・岩手山がきれい。（展望がよい。） ・市のごみ焼却施設が優れている。
<p>短所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み屋さんがないこと。 （コミュニケーションを取れる場所が少ない。） ・自治会に若い世代の参加が少ない。 ・昔から暮らす人と新しく入ってきた人との共存に時間がかかる。 ・郵便局が遠い。（昔は農協で「用」が足りていた。） ・斎場がない。 ・バスの便も少し良くなったが、車は必要。 （大型のショッピングモールがあれば完璧か。） ・仕事場が少ない。 ・大型車両の交通量が多い。 （気を付ける。スクールガードにも立っている。） ・娯楽の場が少ない。
<p>目指す姿</p>	<p>『暮らしやすい地域』 継続して『安心・安全なまちづくり』 『世界一の平和な自治会』</p>

第5章 これからの自治会の姿

方向性と論点の整理

第1章から第4章まで、さまざまな側面から、自治会の現状と課題について検証しました。その結果をもとに、これからの自治会の姿について、方向性と論点を整理しました。

自治会内部の環境

	自治会の強み	自治会の弱み
全地域 共通事項	<ul style="list-style-type: none">・地域の特性に合わせた事業の実施。・自治会役員の責任感が強い。・地域に知識や技能を持つ人がいる。	<ul style="list-style-type: none">・自治会役員の固定化、高齢化。・役員のなり手がいない。・自治会行事への参加者の固定化。・自治会の役員の負担が大きい。・地区集会所の老朽化。
人口 増加地域	<ul style="list-style-type: none">・子どもを対象とする行事への参加率が高い。	<ul style="list-style-type: none">・自治会規模が大きく、細部までの周知に欠ける。
人口 減少地域	<ul style="list-style-type: none">・団塊の世代の地域活動への参加。	<ul style="list-style-type: none">・高齢化により、活動に参加できない世帯が増えている。

自治会を取り巻く外部環境

	チャンスとなる環境	回避すべき脅威
全地域 共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かである。 ・地域に愛着がある人の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き世帯が増え、自治会活動に参加することが難しい世帯が増加している。 ・市からの委嘱委員等の推薦依頼、依頼業務が多い。
人口増加 地域	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地開発により、新しい住宅が建ち、若い世代が増えた。 ・交通の便が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進行し、親と子どものみの世帯が増加している。 ・地域のつながりが希薄である。
人口減少 地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史が古く、地域に顔見知りが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内に空き家が増えている。 ・地域の商店が閉店し、近くに買い物をする場所がない。 ・高齢者のみの世帯、単身世帯が増加している。

これらの自治会の「強み」と「弱み」、自治会を取り巻く「チャンスとなる環境」「回避すべき脅威」の4つの要素を組み合わせることで、これから目指すべき方向性を導き出しました。その実現のため「これからの自治会の姿」を次のとおり提案します。

1 必要とされる自治会を目指します

核家族化や世帯の小規模化が進んでいるため、地域に声を掛け合う人や、困ったときに相談できる人がいることは、地域の安心・安全につながります。

また、災害への備え、地域の交通安全や防犯の対策は、個人や世帯では限界があります。特に、大規模災害発生時に一番威力を発揮するのは、地域のつながりです。

このため、地域の人と人とのつながりをつくり、個人や世帯で解決できない課題を地域で解決する基盤としての役割を果たし、必要とされる自治会を目指します。

(1) 地域のつながりをつくります

自治会員で班を構成することで、近隣の世帯とあいさつや会話を交わすきっかけをつくります。また、班の活動を通じて、地域でお互いに助け合う環境を醸成します。

改善ポイント

- ① 地域で情報を共有
 - ・自治会の活動内容や、地域の情報をまとめたものを定期的に作成し、会員への配布・回覧する。
- ② 転入してきた方、未加入の方への声かけ
 - ・自治会の役割や活動内容をまとめた案内を作成し、転入してきた方、未加入の方への声かけをする。
- ③ ホームページやSNSを活用した情報発信
 - ・インターネットで必要な情報を得る若い世代へ、ホームページやSNSを活用し地域の情報を届ける。

(2) 防災・防犯のネットワークをつくります

防災・防犯により地域の安全を確保するため、地域の状況を把握し、地域での助け合いのネットワークをつくります。また、いざという時に地域主体での活動ができるように備えます。

改善ポイント

① 地域の課題の共有

- ・滝沢市防災マップなどを活用し地域の課題を整理し共有することで、地域全体の当事者意識を高める。

② 地域の状況把握

- ・ご近所での声かけ、災害時に避難が困難な方への訪問、登下校時のあいさつや声かけ等を通じて、地域の状況を把握し、必要に応じて関係機関につなげる。
- ・自治会内の情報共有だけではなく、学校、地域で活動をする企業等との連携を進める。

③ 地域の特性にあわせた活動

- ・自然環境、道路状況、世帯構成等の地域の特性にあわせた訓練や研修会を実施し、ご近所との助け合いの意識啓発をする。
- ・これらの活動を自治会行事に組み入れるなど、多くの世帯が参加できるようにする。

(3) 地域のニーズに対応した活動をします

地域環境の変化やライフスタイルの多様化による地域のニーズに合わせた活動と、柔軟な組織づくりをします。

改善ポイント

① 地域のニーズに合わせた事業

- ・事業の必要性や優先順位を見直し、住民ニーズに合わせた事業を実施する。

② 柔軟な組織づくり

- ・地域の高齢化による世帯数の減少や大型宅地開発による世帯増加など、地域の世帯状況の変化に合わせ組織を見直す。
- ・多くの方がさまざまな形で企画・運営に関わることができるよう、柔軟な体制をつくる。

(4) 行政と地域をつなぎます

自治会として地域の思いを集約し、課題解決に向け地域で合意した内容を行政や関係団体と共有します。また、地域の方が個人や世帯で解決できない課題を抱えたとき、行政の担当窓口や関係機関等とつなぐ役割を果たします。

改善ポイント

- ① 地域の意見集約
 - ・地域の方の困りごとや地域に対する思いを把握し、市民主体では解決できるかどうか課題を整理・集約する。
- ② 地域の合意形成
 - ・課題解決に向けた方向性について地域の合意ができるよう、地域で協議する機会を設ける。
- ③ 関係機関等との連携
 - ・地域の方が個人や世帯で解決できない課題を抱えていることを把握した際は、民生児童委員等と連携し、どこに相談すればいいか案内する。

2 参加しやすい自治会を目指します

核家族化や高齢化により、自治会活動に参加しづらい世帯があります。

また、共働き世帯の増加、定年延長等により、日中に自宅にいない場合や、自宅にいる時間が不規則な場合があり、自治会活動に関心があっても参加できない場合があります。

このため、様々なライフスタイルの方が少しでも活動できるよう、参加しやすい自治会を目指します。

(1) 多様な事業運営の仕組みをつくります

活動全般に参加するのは難しい、活動時間が合わないと考える方に、少しでも活動に参加してもらえる工夫をします。

また、将来余裕ができた時、運営に関わってもらえる工夫をします。

改善ポイント

① 活動の時間帯

- ・地域の重要な会議は、多くの方が参加しやすい時間帯に開催する。
- ・休日のみ運営に携わる役割を設ける。

② 限定的な参加

- ・企画や事業単位で運営に参加してもらおう仕組みをつくる。

③ 情報共有

- ・一堂に会する打合せの回数を減らし、軽微な連絡等を行うインターネットを活用した情報共有の仕組みをつくる。

④ 気軽に参加できる行事

- ・子どもから高齢者まで気軽に参加できる行事を企画し、参加のきっかけづくりをする。

(2) 子育て世帯との接点をつくります

核家族化が進み、子育てに忙しく参加するのが難しいと考える世帯と自治会との接点をつくり、少しでも活動に参加してもらえる工夫をします。

改善ポイント

- ① 子ども向けイベント
 - ・地域の行事に、家族ぐるみで参加できる子ども向けの企画を設ける。
- ② 地域の伝統行事・伝統芸能
 - ・地域への関心や愛着を持てるよう、伝統行事や伝統芸能に参加できる機会を提供する。
- ③ 関係団体との連携
 - ・PTAや学校等、子育て世帯と関わりのある団体と連携した取り組みやイベントを実施する。
- ④ 子どもの見守り
 - ・地域でのあいさつや声かけを通して、地域全体で子どもを見守る。

(3) 地域と関わりをもてる機会をつくります

今まで仕事中心の生活で活動時間が合わなかった方や子育てで忙しく地域との関わりが持てなかった方が、定年退職や生活環境の変化により、地域と関わりがもてるようになった際、参加しづらさを感じずに活動に参加してもらえる工夫をします。

改善ポイント

- ① 集いの場づくり
 - ・気軽に参加できるお茶のみ会や趣味のサークルなど、地域と関わりがもてる場をつくる。
- ② 趣味を披露する機会づくり
 - ・趣味で作品を制作する方や特技などを持つ方が、地域で披露できる機会をつくる。
- ② 経験や技能を活かす機会づくり
 - ・仕事での経験や技能を持つ方が、地域で活躍できる機会をつくる。

(4) 高齢者の参加しやすい環境をつくります

年齢を重ねることにより活動に参加が難しくなった方や介護のために活動に参加する時間を持ってない方が、地域との関わり続けられるような環境をつくります。

改善ポイント

① 多様な参加方法

・高齢者が支援や介護が必要となり、輪番制で行う活動等への参加が難しくなった場合に、その状況に合わせた柔軟な参加方法を考える。

② 声かけ、見守り

・ご近所でのあいさつや声かけや災害時に避難が困難な方への訪問、地域とのつながりを持つ機会をつくる。

③ 関係団体等との連携

・日頃から、社会福祉協議会や民生児童委員等と連携し、自治会だけで支援が困難な場合は必要に応じて関係機関につなげる。

3 負担の少ない自治会を目指します

自治会の活動は、地域の清掃、交流行事、防災・防犯活動など多岐にわたります。それらの活動は地域のために必要なものですが、運営に携わる自治会役員の負担が大きくなっています。

このため、自治会に参加する誰もが負担を感じることなく活動できるよう、負担軽減のための見直しや、担い手へのサポートのための体制づくりを行います。

(1) 事業の内容を見直します

今までの自治会活動について、地域で必要とされている活動と実施している活動の方向性があるか、運営に携わる方の負担が大きくなっているものや必要性が低くなっているものがあるかを振り返り、今後の活動内容を検討します。

改善ポイント

① 事業の最適化・スリム化

- ・事業が効率的、効果的に実施できているか振り返り、最適な開催時期、予算、内容を検討する。
- ・事業の時間や回数を減らし、事業規模を小さくする。
- ・運営が難しい事業は中止の判断をする。

② 事業の共有化

- ・事業を運営する手順(日程、分担、予算)などを共有できる仕組みをつくる。
- ・次年度の運営に携わる方への引継の仕組みをつくる。

③ 事業実施の工夫

- ・近隣の自治会や地域の関係団体や企業など合同で事業を実施する。
- ・学生ボランティアに企画・運営への参加を呼びかける。

(2) 運営規模の適正化を図ります

自治会活動は、地域の人と人のつながりが基盤となり行われているため、参加者がお互いに交流できる範囲での活動が望ましいため、運営規模の適正化を図

ります。また、運営規模を適正化することにより、運営する方の負担を軽減します。

改善ポイント

- ① 下部組織の編成
 - ・地域内で大型宅地開発などにより世帯が増加している場合は、必要に応じて区やブロックを編成し、参加・運営しやすい活動を行う。
- ② 近隣自治会との連携
 - ・世帯が減少している場合は、自治会の枠組みを残しつつ、近隣自治会と連携するなど、活動しやすい規模の事業を行う。
 - ・必要に応じて、地域を取り巻く環境、歴史的なつながりや自主性を尊重しつつ、自治会の区域の見直しをする。

(3) 活動の担い手をサポートします

自治会活動の担い手不足を解消するため、参加しやすい自治会運営の方法を考えます。また、新しい担い手の方を助ける仕組みをつくります。

改善ポイント

- ① 段階的な役割分担
 - ・初めて自治会運営に関わる方には運営の一部を担ってもらいながら、活動の全体像や作業内容を理解してもらい、次に企画を担ってもらう。
- ② 複数体制での運営
 - ・活動の企画運営を複数体制で行うことにより、前任者と新しい担い手が重複する期間を設ける。
- ③ 運営方法の引継ぎ
 - ・新しい担い手が、簡単に自分の役割を理解できるよう、自治会の活動ごとに、スケジュールや、作業内容、予算等がわかる資料をつくる。
- ④ 役割を担う期間を決める
 - ・引き受け手を増やすため期間を区切った役割分担を行い、期間が終わったら次の担い手と入れ替わる環境をつくる。

おわりに

滝沢市自治会連合会創立50周年記念事業の一環として、「提言書 ～これからの自治会のあり方～」の作成に取り組みました。

令和3年5月20日、自治会のあり方検討部会を立ち上げ、これまでに7回にわたり検討を重ねてまいりました。

この間、毎回、事前に提示されたテーマに対する意見をまとめあげて参加し、熱心に議論いただいた検討部会構成メンバーの皆さま、そしてモデル自治会として3回にわたり、テーマに沿ってワークショップを開いていただいた、大釜南・大沢・牧野林中央自治会の皆さまに改めて感謝申し上げたいと思います。

内容的にまだ不足の部分もあるかとは思いますが、この提言書を参考にして、それぞれの自治会が今後ますますの活性化と発展されることを願ってやみません。

ご協力誠にありがとうございました。

令和4年3月31日

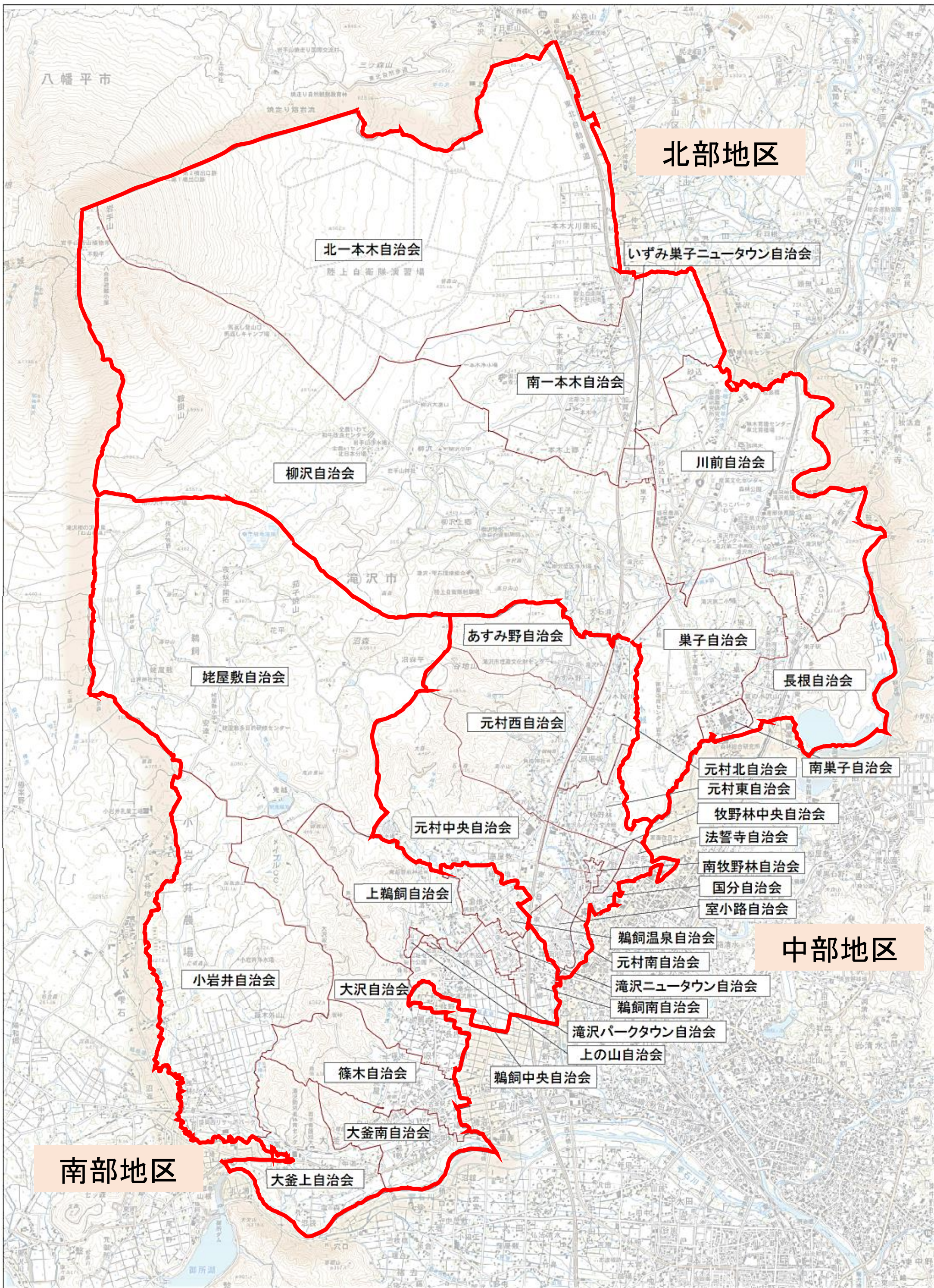
自治会のあり方検討部会
部会長 百目木 忠志

参考資料

- (1) 自治会区分図
- (2) モデル自治会ワークショップ報告書
- (3) 自治会のあり方検討部会設置規程
- (4) 自治会のあり方検討部会名簿

(1) 自治会区分図

	地区名	自治会名
1	南部地区	小岩井自治会
2		大釜上自治会
3		大釜南自治会
4		篠木自治会
5		大沢自治会
6		鶉飼南自治会
7		鶉飼中央自治会
8		滝沢パークタウン自治会
9		上の山自治会
10		上鶉飼自治会
11		鶉飼温泉自治会
12		滝沢ニュータウン自治会
13		姥屋敷自治会
14	中部地区	元村南自治会
15		室小路自治会
16		国分自治会
17		元村中央自治会
18		牧野林中央自治会
19		南牧野林自治会
20		法誓寺自治会
21		元村東自治会
22		元村西自治会
23		元村北自治会
24		あすみ野自治会
25	北部地区	柳沢自治会
26		巣子自治会
27		南巣子自治会
28		長根自治会
29		川前自治会
30		南一本木自治会
31		いずみ巣子ニュータウン自治会
32		北一本木自治会



北部地区

北一本木自治会

いずみ巣子ニュータウン自治会

南一本木自治会

柳沢自治会

川前自治会

姥屋敷自治会

あすみ野自治会

巣子自治会

長根自治会

元村西自治会

元村北自治会

南巣子自治会

元村東自治会

元村中央自治会

牧野林中央自治会

法誓寺自治会

南牧野林自治会

国分自治会

室小路自治会

上鶺鴒自治会

鶺鴒温泉自治会

中部地区

元村南自治会

小岩井自治会

大沢自治会

滝沢ニュータウン自治会

鶺鴒南自治会

滝沢パークタウン自治会

上の山自治会

篠木自治会

鶺鴒中央自治会

南部地区

大釜南自治会

大釜上自治会

(2) モデル自治会ワークショップ報告書

令和3年度 第1回大釜南自治会ワークショップのまとめ

- 日 時：令和3年8月20日（金） 19：30～21：00
- 参加者：24名
- 会 場：大釜地区コミュニティセンター
- 協 力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第1回ワークショップでは、今後の「市民主体の地域づくり活動の方向を展望」するために、改めて地域を見直し、地域に対する参加者それぞれの思い、考えを共有し、確認するため話し合いを行いました。

●第1回ワークショップでのテーマ

テーマ1	「自分たちの地域を知る」
------	--------------

2. 各班の意見

今回、3班に分かれて、個人ワークを元に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったので、まとめて記載しています。

(テーマ1) 「自分たちの地域を知る」

好き、嫌い、地域資源は？ そもそもどんな地域？

項目	内容
誰かに説明するとしたらどんな地域か？	長所 ・交通の便がよい。整備されている。 （バス路線、IC 近い等、道路網） ・あらゆる面で発展している。 （新興住宅、区画整理等） ・自然災害が少ない。（地形がいいかな？） ・公園が計画的に整備されている。 ・観光地が近い。（移動30分圏内） ・都市ガス、水道等インフラが安い。 ・盛岡が近く、地域の立地が良い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・新興住宅地、アパートが増え、転入者（新規住民）が多い。 ・自治会内の人口の平均年齢が若い。 （子ども世帯が増えている。） ・土日ジャンボ市他買い物場所、病院等生活に必要な施設が揃っている。 ・農業（米、野菜、果樹）が盛ん。 ・自然も有り、適度にインフラも整ってバランスが良い地域。 ・学校等も近くにある。子育てしやすい環境。 ・雫石川、岩手山、適度に農地もあり自然豊か。 ・（嫁いできたが）隣近所の人があっただかい人が多い。 ・助け合う仕組みがある。
<p>誰かに説明するとしたらどんな地域か？</p>	<p>短所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人が残らない。 （進学、就職等で地域外へでていく。） ・調整区域が多く、宅地が少ない。 ・新興住宅、アパート等住民と近隣の交流が少ない。 （地域による？） ・集合住宅住民と接点がないわからない。 ・ちょっとした店、銀行等が近くにない。 ・（良くも悪くも）土地に執着。 ・（農業中心？）跡継ぎがない。 ・世代交流が少ない。 ・収入につながる事業（第一次産業、サービス業？）が少ない。 ・これって言うブランドがない。 ・土産や観光、キラキラが少ない。 ・企業・会社（働く場）が少ない。
<p>なぜ、この地に住むの？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代々住んでいる。 ・生まれた時からここしか知らないので比較できない。 ・昔からの知り合いが多いので住みやすい。 ・家業が農業でそれを継いだから。 ・家を守るため。 ・バス路線が便利だから。

	<ul style="list-style-type: none"> ・治安が良い。 ・環境（自然、生活）が良く、住みやすい。
地域をどう思う？ （好き、嫌い、展望は？他）	<p>好きなどの肯定的な点数（5点、4点）が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由はないが好き。 ・安全で住みやすいから。災害が少ない、災害に強い地域だと思う。 ・地域の繋がりは強い。（長年住んでいる住民を中心に） ・資源として：伝統芸能や指定遺跡や八幡神社がある。 土日ジャンボ市は資源。（観光的にも?） <p>これからの展望として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地、休耕田が多いので、集団営農の仕組みを取り入れたい。 ・若者が定住するような地域づくりを。 ・長期的ビジョンがないのでこれからつくる。（?） ・雫石川河川敷等もっと活用できるようにしたい。 ・今の生活を高齢者になっても（例えば免許返納になっても）続けられるのか不安。
これからの5年、 どのように地域に関わる？	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意を生かして地域に関わり続けたい。（運動など。） ・役員になる前は面倒だと思ったが、やってみるといろいろ勉強になる。今の楽しさを自分の周囲の人たちに伝えていく。 ・近所付き合いを息子につなぐ。（今は、関わりがほとんどないから。） ・地域を知ること。 ・立場は変わっても、一住民として行事に参加したり関わりをもちたい。
これからの5年、 どのように地域に関わる？	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交代の仕組み、引き継ぎの仕組みづくりをする。 ・地域の役（役員など）にちょっと関わっていた方が良い。 ・歴史や仕事を若い人に伝えていく。 ・正直、自分のことで精一杯。（関わるのは難しい。）
今後お取り組み、 目指す姿は？	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に引っ越してきた人達との交流機会の創出。 ・地域の良さを周囲に発信していく。 ・若い人たちの意見を聴きたい。 ・若い人たちが戻りたくなる地域づくりをする。

令和3年度 第2回大釜南自治会ワークショップのまとめ

- 日 時：令和3年9月17日（金） 19：30～21：00
- 参加者：16名
- 会 場：大釜地区コミュニティセンター
- 協 力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第2回ワークショップでは、今後の「市民主体の地域づくり活動の方向を展望」するために、改めて地域を見直し、地域に対する参加者それぞれの思い、考えを共有し、確認するため話し合いを行いました。

●第2回ワークショップでのテーマ

テーマ1	「自分たちの地域の未来をデザインする」
------	---------------------

2. 各班の意見

今回、3班に分かれて、地域の目指す姿を思い描きながら、その実現に向けて取り組んでいくことを中心に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったので、まとめて記載しています。

(テーマ1) 「自分たちの地域の未来をデザインする」

目指す姿は？ 課題は？ 何をする??

項目	内容
目指す姿 (テーマ)	『どなたでもスーパーボランティア～安全で安心、誰もが活躍する自治会』 『世代をこえてつながる笑顔あふれるまち』 『自然豊かで安心して子育てできるまち』
目指す姿の 実現に対する 課題は？	・子どもの居場所が足りない。 公園にはルールがあり、のびのび遊べない。 公園に東屋がなく、休憩できない。 スポーツできる場所が少ない。 川や水路の整備が進み、自然環境が減っている。 この地域ではないが：看護短大跡地の有効活用を検討したい。

	<ul style="list-style-type: none"> • 立地条件もよく、交通の便も良いが・・・。 バス路線は主要道路のみで、沿線住民以外は移動手段が少ない。 歩いて行ける場所に集まる空間があるといい。 買い物難民となる可能性あり-近くにスーパーがなく、車がないと大変。 病院、銀行等も遠く、徒歩圏内での生活が成立しにくい。 ⇒注文販売、移動販売があるといい。 • 若い世代の参加が少ない。
<p>目指す姿を実現するために何をする？</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 若い世代へのアピール。 自治会勉強会、様々な広報活動。 • 住民が参加しやすい雰囲気づくり。 笑顔でコミュニケーション、精神的なサポートを。 • 住民の交流機会創出。 子供会と合同の行事開催、防災訓練など。 • 集まる場・空間の提供。 独居高齢者等が日中に集まる場所。 移動販売の取り組み。 ⇒空き地などを提供できるのか？ ロコミで広めれば人が集まる。 オンライン活用した、リアル以外の集まる場の仕組みづくり。 自治会活動をもっと知ってもらうこと。 • SNS の活用。 • 自治会役員の役割が見える化。 <p>活動に対する理解促進のため、かんたんなマニュアルづくり。</p>

令和3年度 第3回大釜南自治会ワークショップのまとめ

- 日時：令和3年10月20日（水） 19：30～21：00
- 参加者：17名
- 会場：大釜地区コミュニティセンター
- 協力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第3回ワークショップでは、前回に引き続き、キャッチコピー（目指す姿のテーマ）に沿って、具体的にどう活動するのか、優先順位等も考えながら意見を出し合いました。

●第3回ワークショップでのテーマ

テーマ1	「未来に向けた具体的な行動を！」
------	------------------

2. 各班の意見

今回も、3班に分かれて、地域の目指す姿を思い描きながら、その実現に向けて取り組んでいくことを中心に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったので、まとめて記載しています。

（テーマ1）「未来に向けた具体的な行動を！」

目指す姿は？ 課題は？ 何をする??

項目	内容
目指す姿 （テーマ）	<ul style="list-style-type: none"> ●『どなたでもスーパーボランティア ～安全で安心、誰もが活躍する自治会』 テーマ：「安心安全」「誰もが活躍する自治会」 ●テーマ『健康でつながる』 『地域を知る、自治会を知ってもらう』 ●『夢が叶うまち大釜』 テーマ：「安心安全」「子育てしやすいまち」 「世代を越えてつながる」
目指す姿の 実現に向けて どう活動を	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の参加促進、交流の場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備、美化活動などへの企画や実施の工夫。 ⇒育成会との連携を深めるため意見交換の場を持つ。

<p>していくか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 除雪活動への中学生参加 ⇒地域活動への参加機会を提供する。＝地元愛を育む。 • コミセン図書館の開館 ⇒住民から図書を提供してもらい、本を通じた交流を。 • 広い世代の人が参加しやすい行事の企画・実施。 ⇒クラフト市・フリマ等、親子対象イベント、地域食等 • 空き家の活用 ⇒コミセン以外で気軽に集まる場の確保。 活用に向け交流創出。
<p>目指す姿を 実現するために 何をする？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会や地域を知るために <ul style="list-style-type: none"> • 子ども版ワークショップの開催 ⇒子ども自治会（？） 世代交流による「地域を知る（歴史）」を学ぶ。 • ウォーキングコース設置で歩いて地域を知る ⇒健康向上もあわせて。 • 自治会役員等の担い手探し ⇒仕事の見える化、引継書作成による事務軽減、規約等の見直し等。 • 自治会行事の見直し ⇒何をやるかを決める、棚卸し作業を。 • 若い世代が得意な役割をつくる ⇒SNS の活用等広報。 ⇒ニーズ調査やその後のコミュニケーション積極的に する。 ●安心安全のまち <ul style="list-style-type: none"> • きれいなまちは犯罪抑制につながる ⇒地域点検から活動アイデアづくりもいいかな？ • 子どもたちへの〇〇教室（地域の中で学ぶ機会を） ⇒楽しく学ぶ機会づくり。 防災や交通安全など。 • 夜間防犯パトロールの充実 ⇒拡大には協力住民が必要。 まちの安全確保の意識啓発と合わせて。 ボランティアというかサポーター的な役割での参加 も視野に入れる。 • バス路線も含めた移動支援事業の検討を始めよう

令和3年度 第1回大沢自治会ワークショップのまとめ

- 日 時：令和3年10月6日（金） 19：30～21：00
- 参加者：23名
- 会 場：大沢集落センター
- 協 力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第1回ワークショップでは、今後の「市民主体の地域づくり活動の方向を展望」するために、改めて地域を見直し、地域に対する参加者それぞれの思い、考えを共有し、確認するため話し合いを行いました。

●第1回ワークショップでのテーマ

テーマ1	「自分たちの地域を知る」
------	--------------

2. 各班の意見

今回、3班に分かれて、個人ワークを元に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったので、まとめて記載しています。

（テーマ1）「自分たちの地域を知る」

好き、嫌い、地域資源は？そもそもどんな地域？

項目	内容
大沢はどんな地域？	長所 <ul style="list-style-type: none">・交通の便がよい。整備されている。 （バス路線、IC近い等、道路網）・3世代同居が多い。・人付き合いがしやすい。・自然豊かで閑静、暮らしやすい。・子どもが外で遊ぶことができる。・地域のまとまりがある、協調性がある。・「結っこ」声掛けが多い。・行事への女性の参加が多い。・産婦人科以外、医療機関は揃っている。・茅葺き、蔵がある。・屋号が面白い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能「田植え踊り」を保育園、小学校で練習している。 ・地区運動会、健康ゲーム交流会、文化祭等楽しい行事が多い。
大沢はどんな地域？	<p>短所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員に負荷が多い。 ・行事が多いので大変。 ・ネットワークが固定化されているかもしれない。 ・新住民は、自分の立ち位置が見えない。 (見えない壁) ・娯楽の場が少ない。 ・集合住宅住民と接点がない、わからない。 ・ちょっとした店が近くにない。 ・子どもが少ない。 ・独身が増えている、農業等跡継ぎが少なく不安。 ・車がないと移動困難である。 ・企業・会社(働く場)が少ない。
なぜ、この地に住むの？	<ul style="list-style-type: none"> ・代々住んでいる。 ・生まれたときからここしか知らないので比較できない。 ・家業が農業でそれを継いだから。 ・家を守るため。 ・環境(自然、生活)が良く、住みやすいと思い移住してきた。
これからの5年、どのように地域に関わる？	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって住みやすい地域、これからも協力していきたい。 ・できること、得意を生かしていきたい。 ・楽しく思えるよう、やり方を考えたい。 ・高齢者担当として頑張る。 ・これまで通り変わらずに。
今後お取り組み、目指す姿は？	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップや福祉見守りマップづくりをしていく。 ・担い手を育てていく。 ・若い人たちに参加してもらう工夫、意見を聞く機会をもつ。 ・役員の任期、持ち回り等の仕組みを検討していく。

令和3年度 第2回大沢自治会ワークショップのまとめ

- 日 時：令和3年11月10日（水） 19：30～21：00
- 参加者：19名
- 会 場：大沢集落センター
- 協 力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第2回ワークショップでは、今後の「市民主体の地域づくり活動の方向を展望」するために、改めて地域を見直し、地域に対する参加者それぞれの思い、考えを共有し、確認するため話し合いを行いました。

2. 各班の意見

今回、3班に分かれて、個人ワークを元に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったため、まとめて記載しています。

(テーマ1) 「自分たちの地域の未来をデザインする」
目指す姿は？ 課題は？ 何をする??

項目	内容
目指す姿 (テーマ)	『高齢者にも誰にでも“優しい地域”』 『地域の宝を再発見！』 『にぎやか・つながり・住民交流がある地域』
目指す姿の 実現に対する 課題は？	・立地条件もよく、交通の便も良いが・・・ バス路線は主要道路のみで、沿線住民以外は移動手段が少ない。 道路の拡幅が進まない。 『賑わい』がない。 住民が地域を知らない。 ・若い世代の参加が少ない 巻き込むためにイベントしてきたが、なかなか結果に結びつかない。 参加のハードルが高い。(個人参加などしにくい。) 役員の担い手が見つかりにくい。

<p>目指す姿を 実現するため に何をする？</p>	<p>○大沢スノーバスターズ立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除雪、現在はできているが、将来は不安もある。 ⇒地域の児童、生徒も含めた助け合いの仕組みをつくる。 <p>○役員の仕事、役割の勉強会を含めた次世代への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割毎の仕事の洗い出し、マニュアル作成での負担軽減。 ・お互いに相談できる（地域課題も含めて）仕組みづくり。 ・S55年に自治会規約を制定⇒住民理解を深める工夫、取り組みをしていく。 ・いきなりではなく、副部長として経験を積んでもらう →それから部長に <p>○若い人の取り込みを進めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康・ゲーム交流会は、年齢制限がなく、誰でも参加できる。 （子どもたち・親子で参加、男性陣がおひるごはん当番、麻雀・カルタなど。） ・「教養部」が中心となって消防団員・若手の勧誘を行っている。 ・親子参加が多い『花壇づくり』など、定着している活動を継続する。 ・SNS等若い人へアピールする情報発信。 <p>○『賑わいの場』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅、産直のような場をつくる。 地域の宝の紹介、産物の販売など。 常設でなく、1回/月からでもやってみたい。 ・団地等の新住民と交流するイベント
------------------------------------	--

令和3年度 第3回大沢自治会ワークショップのまとめ

- 日 時：令和4年1月21日（金） 19：30～20：45
- 参加者：16名
- 会 場：大沢集落センター
- 協 力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第3回ワークショップでは、前回に引き続き、キャッチコピー（目指す姿のテーマ）に沿って、具体的にどう活動するのか、優先順位等も考えながら意見を出し合いました。

テーマ1	「未来に向けた具体的な行動を！」
------	------------------

2. 各班の意見

今回も、3班に分かれて、地域の目指す姿を思い描きながら、その実現に向けて取り組んでいくことを中心に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったので、まとめて記載しています。

(テーマ1) 「自分たちの地域の未来をデザインする」
目指す姿は？ 課題は？ 何をする??

項目	内容
目指す姿 (テーマ)	<ul style="list-style-type: none">●『誰にでも“優しい地域”（と自慢できる地域）』●『地域の宝を再発見！』●『にぎやか・つながり・住民交流がある地域』
目指す姿の 実現に対する 課題は？	<ul style="list-style-type: none">●もう少し利用しやすい交通手段の導入を検討する。 ⇒オンデマンド交通・有償ボランティア輸送サービス ・福祉バス等●役員等の担い手確保。 参加のハードルが高い。（個人参加などしにくい。） 役員の担い手が見つかりにくい。

	<ul style="list-style-type: none"> ●生活支援の必要性・・・ 個別住宅の雪かき、草刈りもできなくなっている世帯の増加。 放課後の子供の居場所や子育て支援の仕組みが地域には少ない。 ⇒子育て世帯の息抜き（？） ●遊休農地を含む農地の活用 ⇒借り手のための農地利用。 ●地域内の様々な組織の連携の仕組みづくり
<p>目指す姿を実現するために何をする？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●住民交流の場づくり <ul style="list-style-type: none"> ○文化祭・ゲーム交流会【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの種目の検討し、参加を促す。カルタ・マーじゃん・トランプに加えて体を動かすもの。（野球・ピンポンなどはどうか。） ・子どもといっしょに参加したいと思うイベントとすることが大切である。 ○運動会【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・種目を検討する。 ・1度、種目アンケートを取ってみてはどうか？ ○花壇づくり【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・今後は植栽作業だけでなく、花壇の管理も子どもたちに当番の協力をお願いしたらどうか。【新規】 ○廃品回収【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ・開催手法の検討 (時期、主催（子供会？ 婦人会？）等) ○休止中の事業の復活について検討の余地あり ●担い手確保 <ul style="list-style-type: none"> ○情報発信【継続+α】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に、自治会の活動や役割を知ってもらうため、情報発信に努める。 ・地域の歴史がわかるカルタづくり。 ・SNS 利用促進の勉強会。 ⇒若い世代に届く情報を ・役員就任の仕組み、ルールづくり。 ●生活支援の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ○中学生スノーバスターズ【新規】

	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回でも（まず「やってみる」ことからスタートする）。 ・「どこを除雪するのか？」のエリア検討も必要である。 ※除雪機貸し出し制度あり ○新しい地域交通の仕組みの検討を始める（今より早い時はなし） <ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティア輸送サービス等先進事例調査も・・・ ○子育て世代への支援として（預かり含む）公民館開放 ⇒誰が？ いつ？ まずは地域のニーズを知ることから始める。 ●連携の仕組みづくりにむけて ○地域住民の得意を知る。（達人？） お互いに教え合う関わり。 「好き」で集まる活動を進める。 ○時間を決めて話し合うことに慣れていく。 例：定例会の後半60分とか？ 隔月とか？ ○福祉マップや災害マップの作成 ⇒お互い様の地域へむけて。
--	---

令和3年度 第1回牧野林中央自治会ワークショップのまとめ

- 日時：令和3年9月19日（日） 10:00~12:00
- 参加者：11名
- 会場：せいほく集会所
- 協力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第1回ワークショップでは、今後の「市民主体の地域づくり活動の方向を展望」するために、改めて地域を見直し、地域に対する参加者それぞれの思い、考えを共有し、確認するため話し合いを行いました。

●第1回ワークショップでのテーマ

テーマ1	「自分たちの地域を知る」
------	--------------

2. 各班の意見

今回、2班に分かれて、個人ワークを元に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったので、まとめて記載しています。

(テーマ1) 「自分たちの地域を知る」

好き、嫌い、地域資源は？ そもそもどんな地域？

項目	内容
誰かに説明する としたらどんな 地域か？	長所 <ul style="list-style-type: none">・災害が少ない。（水害、地震・河川敷整備済）・商業施設が多く、買い物に不自由しない。 （生協等各スーパー）・産婦人科以外、医療機関が整っている。・学校（幼稚園、小学校、中学校が近くにある。）・高校も自転車通学可能範囲内に3つある。 （盛北、中央、盛岡大付属）・県交通滝沢営業所もあり、交通の便が良い。・近くで用事を済ませることができるので、高齢者等移動困難者含）にとってとても利便性が高い。・しずかで治安が良い。飲み屋さんがない。

	<ul style="list-style-type: none"> • 盛岡が近い（ベッドタウン）。/滝沢市であるが盛岡に近い環境である。 • 新しい人と前から住んでいる人がいる。住みやすい。 • よその人を受け入れる地域。人が優しい。 • まとまりが良い。 • スクールガードをしていて子どもたちから声をかけてもらえると嬉しい。 • 岩手山がきれい。（展望がよい。） • 市のごみ焼却施設が優れている。
<p>誰かに説明する としたらどんな 地域か？</p>	<p>短所</p> <ul style="list-style-type: none"> • 飲み屋さんがない（コミュニケーションを取れる場所が少ない）こと。 • 自治会に若い世代の参加が少ない。 • 昔から暮らす人と新しく入ってきた人との共存に時間がかかる。 • 郵便局が遠い。（昔は農協で「用」が足りていた。） • 斎場がない。 • （バスの便も少し良くなったが）車は必要。 （大型のショッピングモールがあれば完璧か。） • 仕事場が少ない。 • 大型車両の交通量が多い。 （気を付ける。スクールガードにも立っている。） • 娯楽の場が少ない。
<p>なぜ、この地に 住むの？</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 代々住んでいる。 • 県内出身者で、盛岡周辺での仕事のため。 • 山田町から震災後に移住。
<p>地域をどう思う？ （好き、嫌い、展 望は？他）</p>	<p>好きなどの肯定的な点数（5点、4点）が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 場所的には住みやすい環境であるが、まだ良くなりそうである。 • ただ好き。近所付き合いにも恵まれていると感じる。 • ゴミ捨てもしやすい。 <p>嫌いというか、課題感として</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新住民と以前から住んでいる住民の意識（地域に対する？）に差がある。 （今回のWS等にも若い世代の参加が少ない。） （メンバー固定化）

	<ul style="list-style-type: none"> • 市役所のビジョンと地域のギャップ (住民の意識は村のまま。) • 若い世代が住み始めいるが、関わりが少ない。 • 進学や就職等転出した人が戻って来ることが少ない。 • 暮らせていけば良いって意識の人が多気がする。 <p>これからの展望として</p> <ul style="list-style-type: none"> • (工夫すれば) もう少し地域内のコミュニケーションがとれそう。 • 期待はしているが…。
<p>これからの5年、 どのように地域に 関わる？</p>	<ul style="list-style-type: none"> • (何かしら) 地域に恩返しをしていく。 • 要望を含めて声を上げていく。 • 若い世代への声掛けをする。 • 転入者が地域に馴染みやすいようつないでいく。 • 自分からコミュニケーションをとっていく。

令和3年度 第2回牧野林中央自治会ワークショップのまとめ

- 日 時：令和3年10月17（日） 10：00～12：00
- 参加者：10名
- 会 場：せいほく集会所
- 協 力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第2回ワークショップでは、今後の「市民主体の地域づくり活動の方向を展望」するために、自分たちの地域の将来像を描き、その実現に向けて解消すべき課題の掘り起こしについて話し合いを行いました。

2. 各班の意見

今回、2班に分かれて、個人ワークを元に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったので、まとめて記載しています。

(テーマ1) 「自分たちの地域の未来をデザインする」

目指す姿は？ 課題は？ 何をする??

項目	内容
目指す姿 (テーマ)	『暮らしやすい地域』 継続して『安心・安全なまちづくり』
目指す姿の 実現に対する 課題は？ 具体的に どうする？	<ul style="list-style-type: none"> ・住民交流/地域の行事の運営 <ul style="list-style-type: none"> ⇒新住民が増えているので交流機会を増やす 新旧住民の交流が促進される行事開催。 世代交流による活性化、伝統や歴史等の未来への継承活動。 集会所の活用促進。 ⇒サロンや気軽に集まる場として活用。 (↑誰が企画？ 中心?) ⇒子供向け行事で人を呼ぶ。 住民が地域を知る機会をつくる。 ⇒住民間で話し合う場作り。若い世代との意見交換が大事。 ⇒あいさつ運動(?) 声をかけやすい雰囲気づくり。 ⇒参加しやすい仕組みとして、マニュアルをつくる。

	<ul style="list-style-type: none"> • 生活環境（見守り）の整備で住みやすい地域。 行政や関係機関と連携し、困り事相談に対応できる仕組みづくり。 環境美化への取組みをさらに強化。（ゴミ、街路樹等）ルールづくり。 空き家についても考えてかなければ・・・。 （行政との連携が必要か。） 民生委員との連携を図って高齢者の見守りをしていく。 スクールガードの新規メンバーがほしい。 病院があると安心する。 （移動困難者が増えるので近くにあれば）
<p>目指す姿の実現に対する課題は？ 具体的に どうする？</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 若い世代へのアピール、自治会役員の担い手確保へつなげる。 IT 等活用した広報のため若い世代から教えてもらう。 →きっかけづくり。 行事運営マニュアルを作り、引き継ぎの簡素化を図る。 「青年部」をつくる。（出る杭をうたないこと。） • さらなる若者定住に向けて。 若者定住施策を市に要望する。 ベッドタウンではなく、市内に働く場があればいいと思う。 市内に大学が2つ。連携していく工夫が必要。 • その他 回覧配布しているが、反応がわからない。 ⇒情報発信の仕方を考えていくことが大事かも。

令和3年度 第3回牧野林中央自治会ワークショップのまとめ

- 日 時：令和3年11月14日（日） 10:00～11:30
- 参加者：10名
- 会 場：せいほく集会所
- 協 力：特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21

1. 開催概要

第3回ワークショップでは、前回に引き続き、キャッチコピー（目指す姿のテーマ）に沿って、具体的にどう活動するのか、優先順位等も考えながら意見を出し合いました。

テーマ1	「未来に向けた具体的な行動を！」
------	------------------

2. 各班の意見

今回も、3班に分かれて、地域の目指す姿を思い描きながら、その実現に向けて取り組んでいくことを中心に各グループで意見交換を行いました。その中で出された意見は以下となっています。共通項も多かったので、まとめて記載しています。

（テーマ1）「未来に向けた具体的な行動を！」

目指す姿は？ 課題は？ 何をする??

項目	Aグループ	Bグループ
目指す姿 (テーマ1)	「暮らしやすい地域」 継続して 「安心・安全なまちづくり」 「住民満足度の高いまち」に (市の自慢をしたい)	目指す姿 世界一の平和な自治会 ・戦争の起こらない世の中であって欲しい。 ・ <u>隣同士ニコニコしながら生活できるように！</u> （まずは身近な範囲で平和を体現する。）

項目	Aグループ	Bグループ
目指す姿の実現に向けていろいろな活動をしていくか？	<p><優先度1></p> <p><input type="checkbox"/> 市中心市街地の形成（行政が中心となるが、市全体として住民も考え取り組む必要があるもの。）</p> <p><優先度2></p> <p><input type="checkbox"/> 情報発信、コミュニケーション OSNS</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習会（若い世代が指導、いっしょに取り組む） ・住民の要望等収集（双方向） ・若い世代へのアプローチの一つとなる。 <p>・「回覧」の量が厚過ぎて、郵便受けに入らないこともある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回覧にQPコード印刷し、若い世代に見てもらう。 <p><input type="checkbox"/> 回覧（行政からの連絡+地区のイベント案内等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日、15日（2回）/月 ・市により吟味して、少量になるよう取り組んでもらいたい（紙がもったいない、経費節減） ・行政のデジタル情報があること自体の周知も必要である。 <p><input type="checkbox"/> 掲示板がない⇒現在はゴミ集積所に掲示している（多くの人に見てもらえるから） （↑ 市に設置要望済、回答待ち）</p> <p><input type="checkbox"/> あいさつをしよう</p>	<p><input type="checkbox"/> 行政機関と連携</p> <p><input type="checkbox"/> 働く場づくり（誘致、起業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県の所有地を活用して企業を誘致する。 ・市内で若い人が働ける場づくり。 ・人口6万人を目指す滝沢なので、市内で受けとめる働く場づくりが必要。 <p><input type="checkbox"/> 個人情報の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いの状況を変えたい。 ・今は本人の同意があれば対応できる。 ・取り扱いの知識の共通化を図りたい。例えば自治会規約に入れる。 ・市議会で条例に入れる。 <p><input type="checkbox"/> 人と人がつながる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な街づくり「仕組みづくり」 ・地区内のつながりづくり / となり近所の連携 / 小学校区の広い連携 / 専門家によるアドバイス ・「隣近所は家族です」という気持ちで地域と接する住民をふやす。 ・今まで以上の交通安全の普及と啓発、実施に取り組む。

項目	Aグループ	Bグループ
	<p>＜優先度3＞</p> <p><input type="checkbox"/> 「青年部」設置検討 出る杭は打たない。飲み会も大事。男女とも、青年！であると思う人が参加する。 コミュニケーションの場づくり</p> <p>＜その他＞</p> <p><input type="checkbox"/> 以前、市アンケートがあったが、3,000世帯であった。</p> <p><input type="checkbox"/> 元村地区の人口は28%/市であるが、政治家（議員）が少ない。</p> <p><input type="checkbox"/> 主要道路の動線が不便（大量の交通量である。）</p> <p>市には年度も要望済み（→県土木へ）</p> <p><input type="checkbox"/> 道路が狭い。←拡幅が必要。 市には今年度も要望済み（→県土木へ）</p> <p>標識等（工夫）設置</p> <p>経過・進捗を継続して確認する</p> <p><input type="checkbox"/> やはり総合病院がほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> 公園に時計がない。←寄贈してくれそうなロータリークラブ、ライオンズクラブの「つて」はないか？</p>	<p><input type="checkbox"/> まちづくりの実施体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体で考えたアイデアは誰がやるか決まらないと進まない。<u>実施体制の構築</u>。 <p><input type="checkbox"/> 学校（小～大）で地域を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極端な話し、滝沢で育った人が転出しなくてもよい自治会、地域にしていく。 ・学校教育で第3次産業を教えられる仕組み、教育内容も加味してほしい。 ・地区内の各種活動に参画する人を確保するために、地区内に住む人を増やす。選ばれる地区にする。 ・子どもに対して、地域を知る、教える機会が必要になる。 <p><input type="checkbox"/> ご近所連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・向う3軒両隣の連携で支え合う。 ・ご近所で連携した高齢世帯の巡回や見守り、将来不安に対する相談フォローを行う。 ・回覧板が多く住民の目に触れる工夫。家庭内の話のネタになる誌面づくり。/工夫する方法を学ぶ。/行政的な情報提供だけじゃない内容も入れる。

項目	Aグループ	Bグループ
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目指す姿の実現に向けてどう活動をしていくか？</p>		<p>□自分のやりたいことに取り組む場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも高齢者が出るので高齢者・若い世代のつながりづくりに、芸術・文化・スポーツを活かす。 ・集会所の利用を増やす。 <p>自分たち（高齢世代）もパソコンやスマホを習って使いたい。自治会運営にも役立てる。</p> <p>趣味の教室で利用を増やす。例えば先週開催したそば打ち教室のような機会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔を知り合う機会づくり <p>お互いを知らないとつながる仕組みも生まれない。</p> <p>□スポーツで市を盛り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝沢市運動公園の有効利用 <p>今の運動公園の利用が日頃の状況を見ると多くないように思うので利用の促進が必要になる。今ある運動公園に加え、牧野林周辺にもつくり周辺住民や大学生の利用も呼び込める。</p> <p>スポーツに親しむ人づくり。世界で活躍する人材育成をしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝沢から世界に羽ばたくスポーツ選手の育成に取り組む。10年計画くらいの期間で考えたい。

(3) 自治会のあり方検討部会設置規程

(趣旨)

第1条

この規程は、滝沢市自治会連合会創立50周年記念事業の実施にあたり組織された、滝沢市自治会連合会創立50周年記念事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）に設置された自治会のあり方検討部会（以下「部会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(部会の構成)

第2条 部会員の構成は、次のとおりとする。

- (1) 部会長 1名
 - (2) 副部会長 2名
 - (3) 部会員 南部・中部・北部地区の自治会役員各2名
- 2 前各号に規定する部会員は相互に兼ねることはできない。
- 3 部会員の選出にあたっては、部会員の所属する単位自治会の区域が、都市部、農村部、新興住宅地等、多岐にわたるように調整するものとする。

(事務所掌)

第3条 部会は、次の業務を所掌する。

- (1) 今後の自治会のあり方についての検討
- (2) 自治会に関する課題解決のために必要な情報の提供
- (3) その他自治会のあり方に関し、部会長が必要と認める事項

(検討会の開催)

第4条 部会は、部会長が招集して開催する。

(任期)

第5条 部会は、自治会連合会に対する今後の自治会のあり方についての提言の完了をもって解散し、部会員はその任を解く。

(事務所管)

第6条 自治会のあり方検討に関する総括的な事務、進行管理は、自治会連合会事務局（市地域づくり推進課）が行うものとする。

(補則)

第7条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に部会長が定める。

附則

この規程は、令和3年5月20日から施行する。

(4) 自治会のあり方検討部会 名簿

部会員

	所属自治会／役職／氏名	
部会長 (自治会連合会副会長)	元村中央自治会	会長 百目木 忠志
副部会長 (自治会連合会理事)	鵜飼南自治会	会長 吉田 清寿
副部会長 (自治会連合会理事)	南一本木自治会	会長 岩井 雅之
部員	滝沢パークタウン自治会	会長 山本 良一
部員	滝沢ニュータウン自治会	会長 遠藤 文敬
部員	元村東自治会	会長 井上 靖宏
部員	元村西自治会	会長 山火 誠喜
部員	長根自治会	会長 鎌田 マキ
部員	いずみ巣子ニュータウン自治会	会長 佐藤 悦夫

モデル自治会

自治会名	会長氏名
大釜南自治会	会長 武田 修
大沢自治会	会長 齊藤 健二
牧野林中央自治会	会長 釜澤 常矢

自治会のあり方の検討部会



モデル自治会



大釜南自治会



大沢自治会



牧野林中央自治会

提言書 ～これからの自治会のあり方～

発行日 令和4年3月31日

編集 滝沢市自治会連合会創立50周年記念事業実行委員会
自治会のあり方検討部会

発行者 滝沢市自治会連合会 会長 下田富幸